

2018 年度開講授業シラバス

# 授 業 概 要

(現代文化学部)



SHOKEI

尚絅大学

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキル		1	柚木 繁之	1年	前期	講義	必修
授業概要		初等・中等教育を終え、大学へ入学する学生の中には、大学という場は高等学校等までの続きであると思いがちな者も多い。むしろ、高等学校等までにおいても、自主的な学習や学校生活を心がけた学生も多いと期待するが、大学では単位修得をはじめとして、あらゆることが学生の自主的な行動によって行われるという点が、これまでの各学校等とは、とりわけ大きく違うところである。大学では学生の自由が多いと言われており、そのことは事実である。しかしながら、自由であるということは、その分、学生自身の行動については学生に任されているということであり、言い換えると、その学生生活についての責任を個々の学生自身が大きく負っているということである。このため、学生の学修における自己責任は、これまでよりもより大きなものと言える。このような背景を踏まえ、本授業科目においては、初めて大学生活を送る受講生が、その生活の上で必須の知識・常識のうち、とくに重要かつ基礎的なことについて取り上げ、大学における自主的な探究に基づいた学修・研究を行うための素養を得ることを目的として講義する。					
キーワード		Academic Skills, Study Skills, Learner Autonomy					
到達目標		・大学における探究的学修および研究の基礎となる、基礎的な修学方法を習得する。・大学における学修活動等において必要となる、中等教育機関等との違いについて理解する。・各自の大学生活における、修学理由と目的を探求する。・目的達成に必要な学修内容、具体的な方法の選択を行うことと、それらに基づいた計画を立て実行する基本的な能力を身に付ける。					
受講生に望むこと		「与えられることをひたすらに受け止める」受講ではなく、一度受け止めた知識・内容を自分なりに解釈あるいは研究し、創造的な理解力と知識としようとする姿勢で取り組んで下さい。 さらに、そのような姿勢を、他科目の受講においても活かす態勢を早めに身に付けて下さい。					
事前・事後学修期間中の学修		授業前には、指示された内容（教科書あるいはその他の指示内容）について、ひととおり目を通すとともに、自身にとって未知のことについては、辞書等を利用して調べておくこと。さらに、特に指示されたことについては、調べてまとめておくこと。授業後は、単に教科書の内容だけを身に付けようとするのではなく、むしろ、授業で伝えられた要点あるいは重要と思われることについてまとめ、あらためて自分の学修態勢に組み込むべきことを整理し、身に付けるよう心がけること。期間中は、これら事前・事後学修事項に留意しつつ意欲的に学修に取り組むとともに、授業者が適宜指示する事項についても従うこと。					
課題と評価の方法		授業中に指示された各種活動（意見発表、課題ほか）：70% 受講姿勢など：30%（予定）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	授業科目オリエンテーション：卒業まで学生に必要な各スキルについて（概要）					授業1回あたり、2時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するため各自が要する時間。	
2	大学生の学修姿勢：高等教育（大学等）と中等教育までの違いについて						
3	情報検索手法等：講義、演習、課題などに必要な情報獲得スキルについて						
4	講義等：講義の効率的な受け方について						
5	演習等：演習活動への積極的な参加について						
6	課題等：各種課題の種類・内容などについて						
7	議論・討論：論立ての基本と討論の基礎について						
8	総括ほか						
※開講日設定、施設等都合などにより、順序が入れ替わることがあります。							
関連科目	「クリティカルリーディング」ほか						
資格							
教科書	「スタディスキルズ・トレーニング ―大学で学ぶための25のスキル― 改訂版」 吉原恵子他著 実教出版（ISBN：978-4-407-34061-7）						
参考資料	各種辞書（電子辞書等可） その他は、授業中に適宜指示する。						
連絡先	電子メール：{yunoki@nifty.com} IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室						
オフィスアワー	前期：火12:15-13:00・火16:20-17:05 後期：水12:15-13:00・水13:55-14:40   ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム（メニュー[授業関連]-[教員時間割]）あるいは学生支援課掲示を確認すること。						
備考	・評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。 ・教科書・教材等は入学後のオリエンテーションでの説明に従って購入して下さい。・本科目は前期に8回開講されます。 各回の開講日は第1回目の講義時に連絡します。（毎週連続開講とはならない場合があります。）						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキル		1	水谷 智彦	1年	前期	講義	必修
授業概要		初等・中等教育を終え、大学へ入学する学生の中には、大学という場は高等学校等までの続きであると思いがちな者も多い。むしろ、高等学校等までにおいても、自主的な学習や学校生活を心がけた学生も多いと期待するが、大学では単位修得をはじめとして、あらゆることが学生の自主的な行動によって行われるという点が、これまでの各学校等とは、とりわけ大きく違うところである。大学では学生の自由が多いと言われており、そのことは事実である。しかしながら、自由であるということは、その分、学生自身の行動については学生に任されているということであり、言い換えると、その学生生活についての責任を個々の学生自身が大きく負っているということである。このため、学生の学修における自己責任は、これまでよりもより大きなものと言える。このような背景を踏まえ、本授業科目においては、初めて大学生活を送る受講生が、その生活の上で必須の知識・常識のうち、とくに重要かつ基礎的なこと等について取り上げ、大学における自主的な探究に基づいた学修・研究を行うための素養を得ることを目的として講義する。					
キーワード		Academic Skills, Study Skills, Learner Autonomy					
到達目標		・大学における探究的学修および研究の基礎となる、基礎的な修学方法を習得する。・大学における学修活動等において必要となる、中等教育機関等との違いについて理解する。・各自の大学生活における、修学理由と目的を探求する。・目的達成に必要なとなる学修内容、具体的な方法の選択を行うことと、それらに基づいた計画を立て実行する基本的な能力を身に付ける。					
受講生に望むこと		「与えられることをひたすらに受け止める」受講ではなく、一度受け止めた知識・内容を自分なりに解釈あるいは研究し、創造的な理解力と知識としようとする姿勢で取り組んで下さい。  さらに、そのような姿勢を、他科目の受講においても活かす態勢を早めに身に付けて下さい。					
事前・事後学修期間中の学修		授業前には、指示された内容（教科書あるいはその他の指示内容）について、ひととおり目を通すとともに、自身にとって未知のこと等については、辞書等を利用して調べておくこと。さらに、特に指示されたこと等については、調べてまとめておくこと。授業後は、単に教科書の内容だけを身に付けようとするのではなく、むしろ、授業で伝えられた要点あるいは重要と思われること等についてまとめ、あらためて自分の学修態勢に組み込むべきことを整理し、身に付けるよう心がけること。					
課題と評価の方法		授業中に指示された各種活動（意見発表、課題ほか）：70% 受講姿勢など：30%（予定）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	授業科目オリエンテーション：スタディスキルズについて					授業1回あたり、2時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するため各自が要する時間。	
2	大学生の学修姿勢：高等教育（大学等）と中等教育までの違いについて						
3	大学生生活のデザイン：4年間の学修と卒業までの道のりについて						
4	講義等：講義の効率的な受け方について						
5	演習等：演習活動への積極的な参加について						
6	課題等：各種課題の種類・内容などについて						
7	議論・討論：論立ての基本と討論の基礎について						
8	総括ほか						
		※開講日の設定都合により、内容が入れ替わることがあります。					
関連科目		「クリティカルリーディング」 ほか					
資格							
教科書		「スタディスキルズ・トレーニング ―大学で学ぶための25のスキル― 改訂版」 吉原恵子他著 実教出版 ISBN：978-4-407-34061-7					
参考資料		各種辞書（電子辞書等可） その他は、授業中に適宜指示する。					
連絡先		武蔵ヶ丘キャンパス 1号館2階 水谷研究室 mizutani@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー		木曜2限（10：30～12：00）					
備考		・評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。 ・教科書・教材等は入学後のオリエンテーションでの説明に従って購入して下さい。・本科目は前期に8回開講されます。 各回の開講日は第1回目の講義時に連絡します。（毎週連続開講とならない場合があります。）					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
基礎セミナー		1	釜賀 誠一	1年	前期	演習	必修
授業概要	基礎セミナーでは、大学に入学したばかりの皆さんが大学生活および本学での学修の基本を学び、本学の学修をより支障なく始められるように、建学の精神及び沿革、各領域（文芸文化、情報メディア文化、日本・東アジア社会文化、観光文化）の説明、授業履修の方法など、学生生活をよりよく送るための基礎知識を習得する。						
キーワード	建学の精神、尚綱の理念、履修登録、PROGテスト						
到達目標	大学生活および本学での学修の基本を学び、本学の学修に対する見通しを提供し、円滑な学生生活ができるような基本生活や基本学習のスキルを身につけることを目標としている。						
受講生に望むこと	遅刻や欠席をせずに、学生間のコミュニケーションを心がけること。						
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：講義等で気になった用語等を調べて理解すること。 事後学修：講義等で気になった用語等を調べて理解すること。 期間中の学修：学生間のコミュニケーションをとること。						
課題と評価の方法	課題：必要に応じて課題を課す。 評価：建学の精神と沿革（20点）、文芸文化（20点）、情報メディア文化（20点）、日本・東アジア社会文化（20点）、観光文化（20点）として、合算して評価を行う。欠席回数が全回数の3分の1を超えた場合、単位認定は行わない。						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	建学の精神と沿革 (1)	建学の精神、目的、各種ポリシー等				1時間	
2	カリキュラムと履修モデル (1)	カリキュラム、履修モデル、履修方法等				1時間	
3	建学の精神と沿革 (2)	学部の理念、学生の基礎力測定 (1)				1時間	
4	建学の精神と沿革 (3)	学部のポリシー、学生の基礎力測定 (2)				1時間	
5	学修内容と卒業後の進路 (1)	学修の内容と卒業後の進路の関係の説明				1時間	
6	文芸文化 (1)	文芸文化領域での学習の内容と特質の説明				1時間	
7	文芸文化 (2)	文芸文化領域での学習の内容と特質の説明				1時間	
8	情報メディア文化 (1)	情報メディア文化領域の学習内容と特質				1時間	
9	情報メディア文化 (2)	情報メディア文化領域の学習内容と特質				1時間	
10	日本・東アジア社会文化 (1)	日本・東アジア社会文化領域の学習内容と特質				1時間	
11	日本・東アジア社会文化 (2)	日本・東アジア社会文化領域の学習内容と特質				1時間	
12	観光文化 (1)	観光文化領域での学習内容と特質の説明				1時間	
13	観光文化 (2)	観光文化領域での学習内容と特質の説明				1時間	
14	カリキュラムと履修モデル (2)	レポート、試験、GPA、成績について				1時間	
15	学修内容と卒業後の進路 (2)	学修の内容と卒業後の進路の関係の説明				1時間	
関連科目	教養科目及び専門科目全般						
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先							
オフィスアワー	担当が回ごとに変わるため、授業の前後で質問を受け付ける。						
備考	基礎セミナーの日程は担当講師の都合等により変更となる場合がある。						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
日本語表現Ⅰ	2	三浦 知志	1年	前期	講義	必修
授 業 概 要	日本語における基礎的な表現技術を学ぶことによって、論理的な文章を書く力、説得的なプレゼンテーションを行う力、および他者の意見を理解し議論する力を養う。					
キ ー ワ ー ド	文章表現、プレゼンテーション					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的でわかりやすい文書作成およびプレゼンテーションを行う。</li> <li>・他者の意見に対して自分の意見をわかりやすく述べる。</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	自らの言葉を磨く良い機会です。主体的に授業に取り組みましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修…授業で提示する事前課題に取り組むこと。 事後学修…課題を復習し、以後の授業に生かすこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	授業内課題 50%、期末レポート 50%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス				授業1回あたり4時間	
2	自己紹介をする					
3	質問をする					
4	メモを残す					
5	敬語を使う					
6	Eメール・手紙を書く					
7	エッセイ・ブログを書く					
8	語彙力を鍛える (1) 別の言葉にする					
9	語彙力を鍛える (2) 文章を縮める					
10	表現力を鍛える (1) 言葉の意味を考える					
11	表現力を鍛える (2) 描写する					
12	論理力を鍛える (1) 言葉の接続を考える					
13	論理力を鍛える (2) 客観的に書く					
14	小論文を書く					
15	まとめ					
関 連 科 目	日本語表現Ⅱ					
資 格	日本語教員 (必修)、プレゼンテーション実務士 (選必)					
教 科 書	使用しません。					
参 考 資 料	随時指示します。					
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	初回授業時に通知します。					
備 考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語表現Ⅱ	2	三浦 知志	1年	後期	講義	必修
授業概要	レポート作成や研究発表といった大学で求められる課題のなかで、情報収集の力や論理的な文章を書く力を養う。					
キーワード	文章表現、アカデミック・スキル					
到達目標	情報を適切に収集し、論理的でわかりやすいレポート作成を行う。					
受講生に望むこと	自らの言葉を磨く良い機会です。主体的に授業に取り組みましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修…授業で提示する事前課題に取り組むこと。 事後学修…課題を復習し、以後の授業に生かすこと。					
課題と評価の方法	授業内課題 50%、期末レポート 50%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス				授業 1 回あたり 4 時間	
2	紹介スピーチをする					
3	文章について話し合う					
4	レジュメを作る					
5	文章の型を知る (1)					
6	文章の型を知る (2)					
7	レポートのテーマを決める					
8	インターネットで調べる					
9	図書館で調べる					
10	文献表を作る					
11	先行研究の問題点を見つける					
12	レポートを書く (1) 書式					
13	レポートを書く (2) 引用					
14	レポートを書く (3) 推敲					
15	まとめ					
関連科目	日本語表現Ⅰ					
資格	日本語教員 (必修)、プレゼンテーション実務士 (選択)					
教科書	使用しません。					
参考資料	随時指示します。					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	初回授業時に通知します。					
備考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	釜賀 誠一	1 年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにさきだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート (70%)、平常点 (30%) とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士 (選択)					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン (アカデミック・スキルズ) 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初めに配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	山川 仁子	1年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにききだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート（70%）、平常点（30%）とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士（選択）					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン（アカデミック・スキルズ） 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初めに配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	黄 蘊	1 年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにききだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート (70%)、平常点 (30%) とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ (レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士 (選択)					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン (アカデミック・スキルズ) 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初回に配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	三浦 知志	1年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにききだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート(70%)、平常点(30%)とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ(レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ(レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ(レポート or ディスカッション)				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士(選択)					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン(アカデミック・スキルズ) 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初めに配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	柚木 繁之	1年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにさきだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート(70%)、平常点(30%)とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画	事前・事後学修の目安				
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1	事後学修各 2 時間				
2	「新聞記事」の読解 2	事後学修各 2 時間				
3	「新聞記事」の読解 3	事後学修各 2 時間				
4	「新聞記事」の読解 4	事後学修各 2 時間				
5	まとめ(レポート or ディスカッション)	事後学修各 2 時間				
6	「評論文」の読解 1	事後学修各 2 時間				
7	「評論文」の読解 2	事後学修各 2 時間				
8	「評論文」の読解 3	事後学修各 2 時間				
9	「評論文」の読解 4	事後学修各 2 時間				
10	まとめ(レポート or ディスカッション)	事後学修各 2 時間				
11	「雑誌論文」の読解 1	事後学修各 2 時間				
12	「雑誌論文」の読解 2	事後学修各 2 時間				
13	「雑誌論文」の読解 3	事後学修各 2 時間				
14	「雑誌論文」の読解 4	事後学修各 2 時間				
15	まとめ(レポート or ディスカッション)	事後学修各 2 時間				
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士(選択)					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン(アカデミック・スキルズ) 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初めに配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	金 承珠	1 年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにききだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート（70%）、平常点（30%）とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士（選択）					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン（アカデミック・スキルズ） 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先						
オ フィ ス ア ワ ー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備 考	1 回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初めに配布するスタディスキル II 担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
クリティカル・リーディング	2	水谷 智彦	1年	後期	講義	必修
授 業 概 要	クリティカルリーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などにききだつ資料等の読解においても必要なスキルである。本授業の目標は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	文章読解、文章作成、評論文、レポート					
到 達 目 標	文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につける。					
受 講 生 に 望 む こ と	遅刻欠席せずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 事後学修：授業中の課題の復習やレポートを作成すること。 期間中の学修：新聞や評論等を読んでおくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じて各教員がレポート等の課題を課す。 評価：上記の課題等によって評価するレポート（70%）、平常点（30%）とする。具体的には各教員が指示する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明、「新聞記事」の読解 1				事後学修各 2 時間	
2	「新聞記事」の読解 2				事後学修各 2 時間	
3	「新聞記事」の読解 3				事後学修各 2 時間	
4	「新聞記事」の読解 4				事後学修各 2 時間	
5	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
6	「評論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
7	「評論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
8	「評論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
9	「評論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
10	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
11	「雑誌論文」の読解 1				事後学修各 2 時間	
12	「雑誌論文」の読解 2				事後学修各 2 時間	
13	「雑誌論文」の読解 3				事後学修各 2 時間	
14	「雑誌論文」の読解 4				事後学修各 2 時間	
15	まとめ（レポート or ディスカッション）				事後学修各 2 時間	
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士（選択）					
教 科 書						
参 考 資 料	スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための 25 のスキル 実教出版 クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン（アカデミック・スキルズ） 慶應義塾大学出版会					
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス 1号館2階 水谷研究室 mizutani@shokei-gakuen.ac.jp					
オ フィ ス ア ワ ー	初回授業時に通知する。					
備 考	1回目にクラス分けを行うので欠席しないこと。 初回に配布する担当一覧の先生により授業内容を指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本伝統文化Ⅰ	2	飯富 章宏	1年	後期	講義 実技	必修
授業概要	[華道：坂田全8回] 日本の伝統文化のひとつである華道の、歴史的な成り立ちから現代までの流れについて学び、現代的な意義について考える。生け花の実技を通して基礎花型を習得する。[能楽：飯富全8回] 能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能を学んでいく。実技体験やビデオ学習も併用し、その後の日本文化の理解にもつながることを目指す。					
キーワード	[華道] パワーポイントによる作品鑑賞。実技(1人1作生花をいける。場合によりグループ制作もある。) [能楽] 伝統芸能、芸能史、能楽、世阿弥、熊本の能楽、夏目漱石					
到達目標	[華道] 日本の伝統文化である華道について、基礎的事項、歴史的経緯を学び、日本の伝統文化の理解を深める。小原流生け花の基礎花型を習得する。 [能楽] 古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。能楽はじめ諸々の日本伝統芸能の理解を深めることも望ましい。					
受講生に望むこと	[華道] 伝統文化である生け花を楽しんでください。国内外を問わず世界各地で日本の生け花を学んでいる人々があります。大学で学べるこの機会を大切に、生け花の基本を身に付けてください。[能楽] 講義中に映像や実技なども多用するしっかり鑑賞してもらいたい。レポートを課すが、簡潔にして、主旨を明瞭に述べることを求める。礼儀をわきまえた真面目な受講を求む。					
事前・事後学修期間中の学修	[華道] 歴史の流れに沿った学習であるため、次に続くよう必ず前回の復習をして講義に臨むこと。実技で生けた生花を持ち帰ったら必ずで生けてみることに。 [能楽] 本年は、漱石没後百年の年にあたる。漱石と能楽の関係を理解するために「草枕」を最終日までに読む事。					
課題と評価の方法	[華道] 実技と試験またはレポートにより評価する。実技(技能習得)50% 試験(レポート)50% [能楽] 授業出席を重視する。授業態度の良いくない学生には退出を命じる。レポートも課す。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	[華道] オリエンテーション 伝統文化について、いけばなの鑑賞・現代のいけばな				講義前、前回復習30分、 講義後、実技復習30分  [能楽] 講義毎に事前30分、 事後30分 ※テキストを読んでくること。	
2	華道の歴史Ⅰ(はじまり～平安)・基礎花型の練習					
3	華道の歴史Ⅱ(鎌倉～室町)・基礎花型の練習					
4	華道の歴史Ⅲ(室町～安土桃山)・基礎花型の練習					
5	華道の歴史Ⅳ(江戸)・基礎花型の練習					
6	華道の歴史Ⅴ(明治)・基礎花型の練習					
7	華道の歴史Ⅵ(現代)・基礎花型の練習・応用型					
8	まとめ、評価、基礎花型の確認(実技テスト)					
9	[能楽] オリエンテーション 能楽を知ろう。能楽の源流。『翁 猿楽』『式三番』					
10	古代から能楽以前の日本芸能					
11	神能「高砂」 修羅能「清経」					
12	髪物能「井筒」					
13	現在物能「隅田川」					
14	切能「船弁慶」					
15	近世以降の伝統芸能への影響。まとめ、評価、質疑応答。					
関連科目	日本伝統文化Ⅱ					
資格	希望によりいけばな小原流初等科修了書(免許状)・日本語教員(選択)					
教科書	[華道] 使用しない。(実技のテキストは希望者のみ購入可) [能楽] 「謡曲を読もう<謡曲百番集>改訂版」夕田謙二、「秘すれば花」渡辺淳一					
参考資料	[能楽] 参考図書として「図解日本音楽史」田中健次/東京出版					
連絡先	武蔵ヶ丘教務課					
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付けます。					
備考	[華道] 花代は学生の負担となります。(1回325円程度) ※授業グループについて Aグループ：能楽終了後、華道の授業となります。 Bグループ：華道終了後、能楽の授業となります。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
国際日本学	2	島山 真一	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	国際日本学は、現代的な日本文化を外からの視点から分析し、その特徴と普遍性を明らかにしようとする分野である。本講義では、映画・アニメーション分析、ポピュラー音楽分析といった観点から、日本文化を分析する視座を学んでいくことを目的としている。					
キ ー ワ ー ド	文化研究, 表象論, 文化社会学					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーションや映画の成立史を理解する</li> <li>・ポピュラーカルチャーを分析する枠組にどのようなものがあるかを理解する</li> <li>・分析ツールを利用して、現代日本の文化的事象を分析するスキルを身につける</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	きちんと参考文献を読んだ上で授業に参加してほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前に配布された資料を読んでおく。事後には、資料と授業で学んだ分析のフレームワークを利用して、指示された作品や現象を分析する。					
課 題 と 評 価 の 方 法	中間レポートと期末レポートによって評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	授業の導入				1回の授業につき4時間	
2	表象分析とは（アニメーション映画は何を映し出しているのか）					
3	映画分析の基礎 1（映画の文法とは）					
4	映画分析の基礎 2（映像と音響）					
5	音楽と映像					
6	音楽構造と歌詞（いわゆる JPOP を例にとって）					
7	日本語ラップと社会運動					
8	アニメーションの成立史					
9	アニメーションと実写映画					
10	アニメーションとミュージカル					
11	カワイイとは何か					
12	2.5次元とは何か					
13	「懐かしい」とは何か					
14	ジェンダー研究からみた日本文化					
15	まとめ					
関 連 科 目						
資 格						
教 科 書	事前に資料を配付します。					
参 考 資 料	Hollywood Cartoons Of Mice and Magic  映画分析入門 ラップのことは 憂鬱と官能を教えた学校					
連 絡 先	htk@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
経済と社会 I	2	所 吉彦	1年	前期	講義	必修
授 業 概 要	経済学が社会全体に影響を及ぼしている現状とその仕組みを理解します。そのため、テキスト、講義、グループワーク、事例を交え、学びをすすめていきます。					
キ ー ワ ー ド	マクロ経済学、ミクロ経済学					
到 達 目 標	マクロ経済、ミクロ経済の大枠を捉え、社会人として最低限の教養を身につけます。					
受 講 生 に 望 む こ と	講義中心でスタートしますが、回を重ねるごとにグループワーク中心となるため、積極的に参画をしてください。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修として教科書指定範囲を読んで、自分なりの理解をもとに、期中学修におけるチーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初自分もっていたイメージとの違いを明らかにし記録してください。					
課 題 と 評 価 の 方 法	レポート 50% (15 回目にレポートをフィードバックします)、クラス貢献 20%、クイズ 10%、スピーチ 20%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション				事前事後各 2 時間	
2	マクロ経済学とミクロ経済学					
3	マクロ経済学の基本					
4	ミクロ経済学の基本					
5	消費者行動					
6	企業行動					
7	経済事例 1 とクイズ					
8	市場の機能					
9	経済事例 2 とクイズ					
10	寡占市場					
11	経済主体の実際					
12	スピーチ 1					
13	スピーチ 2					
14	リフレクション、レポート					
15	まとめ (レポートフィードバック)					
関 連 科 目						
資 格						
教 科 書	「大学 4 年間の経済学が 10 時間で学べる」 978-404-601168-8 井堀利宏 (東大名誉教授) 角川					
参 考 資 料						
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス 1 号館 2 F、 toko@shokei-gakuen. ac. jp					
オ フィ ス ア ワ ー	水曜 12 : 10-12 : 55、木曜 12 : 10-12 : 55					
備 考	実務家外部講師による講話を予定しています。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
政治と社会		2	宇野 文重	1年	前期	講義	必修
授業概要	この講義では、具体的な社会問題や政策、この国の仕組みに関する知識を身につけることを通じて「政治」とは何かについて学修する。大学生の日常生活にとって「政治」はやや「遠い」ものと感じるものかもしれない。しかし、クラスやサークルで活動する中で、みんなで話し合い一つの結論を出さなければならないという場面に遭遇することはあるだろう。その決め方やメンバーの役割、目的や結論の正しさ、公平さ、実現可能性などさまざまな要因に頭を悩ませたり、納得がいかなかった経験がある人もいるかもしれない。こうしたこのさまざまな場面には「政治」が深くかかわっている。そこでこの講義では、受講生は必ずニュース記事を記録して、毎回の講義冒頭で発表(1名)をしてもらうこととする。担当教員が必ず解説をするので、実際のニュースを一つ一つ理解することからスタートし、必要な知識を身につけながら自分自身と政治の問題についてしっかり考えてほしい。						
キーワード	「私」と政治、自由、民主主義、地域社会と政治、働くことと政治、女性と政治						
到達目標	(1) 政治に関する基本的な用語や知識を理解できる。 (2) 現在の社会問題や政策に関心を持ち、現状や課題について説明できる。 (3) グループワークや意見交換などを通じて他者の意見を聞き、自分の意見を伝えることができる。						
受講生に望むこと	・「政治」に「正解」はありません。さまざまな知識や情報を積極的に習得して「自分の意見」を確立できる基礎力を身につけてほしいと思います。・こつこつ毎回ニュース記録ノートをつけることができれば、知識も「世界」も各段に広がります。自信にもつながりますので、しっかり取り組んでください。						
事前・事後学修期間中の学修	事前学修①ニュース(新聞記事、テレビのニュース)の記録を毎回取ること。②テキストの指定された部分をよく読むこと。 事後学修①ニュース記録の解説をまとめて、自分のコメントを記入すること。						
課題と評価の方法	ニュース記録ノートの提出(30%)、授業態度・課題提出(グループワークでの主体性・協調性、VTR鑑賞の感想文の提出など、20%)、定期試験またはレポート(50%)						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス					事前学修＝3時間 事後学修＝1時間	
2	「日本」とは何か①「日本人」とはだれか						
3	「日本」とは何か②この国のかたちを知ろう						
4	「私」と政治①国民主権と私						
5	「私」と政治②自由と私／ニュースをシェアしよう(グループワーク)						
6	「女性」と政治①女には向かない職業?						
7	「女性」と政治②個人的なことは政治的なこと／VTR鑑賞						
8	地域社会と公共性						
9	働くことと政治①「勤労」と国家						
10	働くことと政治②税金と社会保障						
11	決め方と政治①民主主義とはなにか						
12	決め方と政治②多数決とはなにか／ニュースをシェアしよう(グループワーク)						
13	歴史と運動						
14	国際社会と日本の政治						
15	全体のふりかえり						
関連科目	経済と社会Ⅰ、法と社会						
資格							
教科書	井出栄策ほか著『大人のための社会科』(有斐閣、2017年)						
参考資料	適宜指示する。						
連絡先	funo@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回講義日に通知します。						
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
法と社会		2	宇野 文重	1年	後期	講義	選択
授業概要	アニメやドラマの名探偵や型破りの弁護士の活躍をフィクションとして楽しんでいる人も多いと思いますが、「実際にこういう事件が起こった時には、どんな風に裁かれるんだろう？」と疑問に思ったことはありませんか？2009年に裁判員制度がスタートし、わたしたち一般の市民も裁判官とともに判決を言い渡す役割を担うことになった現在、「実際にどのように裁くのか/裁くべきなのか」という問いはリアルな疑問として目の前にあるといえます。この講義では、日本の刑法と刑事裁判を中心に、現在の日本社会における法と裁判の実態について学びます。主な素材は刑法と裁判員制度ですが、女性と法にかかわる諸問題（DV法・ストーカー法、男女雇用機会均等法、夫婦別姓や代理母などの家族法）についても実例を挙げながら解説します。						
キーワード	刑法、刑事裁判、裁判員制度、女性と法						
到達目標	(1) 刑法と刑事裁判制度の基礎知識を身につける。 (2) 裁判員制度の仕組みを理解し、その意義と課題について説明できる。 (3) 現在社会に生きる女性にとっての課題について、法的にどのような対応がなされているか説明することができる。						
受講生に望むこと	法律についてはじめて学ぶ人がほとんどだと思いますので、臆せず、素朴な疑問をどんどんぶつけてみてください。講義では、小説やドラマなどをはじめできるだけいろいろな「事例」や「事件」を紹介したいと思いますので、楽しみながら学びを深めていってください。また、課題図書を指定しますので（あまり難しい図書ではないです）ジャンルを問わず、たくさん読書することを望みます。						
事前・事後学修期間中の学修	事前学修・テキストの指定箇所や判例を読んでくること。 事後学修・課題図書を読み、ブックレビューを記録すること。						
課題と評価の方法	課題の提出（30%）＋試験またはレポート（70%）						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス					事前学修＝2時間 事後学修＝2時間	
2	裁判所と法律						
3	日本の罪と罰①刑法の基礎知識						
4	日本の罪と罰②刑法の歴史と現在						
5	日本の罪と罰③刑罰とはなにか						
6	日本の罪と罰④犯罪とはなにか						
7	日本の刑事裁判①仕組みと課題						
8	日本の刑事裁判②冤罪・99.9%の真実（VTR）						
9	日本の刑事裁判③死刑と民事責任						
10	裁判員制度①裁判員制度のしくみ						
11	裁判員裁判②実際の事件から考えてみよう（VTR＋グループワーク）						
12	女性と裁判①女性と刑事裁判						
13	女性と裁判②女性と権利						
14	女性と裁判③女性と法律						
15	全体のまとめ						
関連科目	政治と社会						
資格							
教科書	松井茂記ほか『はじめての法律学 第5版』（有斐閣アルマ、2017年）						
参考資料	第1回の講義および単元ごとに指示します。						
連絡先	funo@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	第1回講義で連絡します。また研究室前に掲示します。						
備考							

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
メディアリテラシー	2	三浦 知志	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	現代社会は、新聞やテレビといった従来のマスメディアによって多量の情報が生みだされているだけでなく、インターネットによって一個人が全世界に情報を発信することができ、さらに多量の情報が飛び交う社会である。こうした社会のなかでわたしたちは、情報を批判的に受けとり、また適切に発信する心構えをもつべきである。本講義ではマスメディアやインターネットを題材とし、情報を読み解く力・発信する力を磨く場としたい。					
キ ー ワ ー ド	メディアリテラシー、マスメディア、インターネット					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスメディアがもたらす情報を批判的に読み解くことができる。</li> <li>・情報発信のための注意点を説明することができる。</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	メディアリテラシーは人生を自由に生きるための知恵のひとつです。主体的に授業に臨みましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	授業内課題に積極的に取り組むこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	受講態度60%、試験40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	ガイダンス					授業1回あたり4時間
2	テレビ (1) 子供向けアニメを読む					
3	テレビ (2) グループワーク					
4	新聞 (1) さまざまな新聞を読む					
5	新聞 (2) グループワーク					
6	雑誌 (1) ファッション誌を読む					
7	雑誌 (2) グループワーク					
8	広告 (1) さまざまな広告を読む					
9	広告 (2) グループワーク					
10	音楽 (1) 歌詞を読む					
11	音楽 (2) グループワーク					
12	インターネット (1) ウェブサイトを読む					
13	インターネット (2) グループワーク					
14	SNSについて					
15	まとめ					
関 連 科 目						
資 格						
教 科 書	使用しません。					
参 考 資 料	随時指示します。					
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	初回授業時に通知します。					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
日本文学史Ⅰ	2	武田 昌憲	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	日本文学の基礎知識として、近世までの文学の流れを学修する。千数百年の日本の文学は最も基本的で長大な我が国の文化である。日本の歴史的な出来事（海外との交流事情も含む）をも踏まえ、主な文学作品を取り上げながら、時代相の特質も説明していく。日本文学を読み解く基礎的な力も育成していく。ビデオ鑑賞も予定している。					
キ ー ワ ー ド	日本文学 古典 日本文学史 作者 作品					
到 達 目 標	基礎的な日本古典文学の流れが理解できる。 海外との影響も踏まえて文学史をとらえることができる。					
受 講 生 に 望 む こ と	できる限り作品（書物）に手で触れてほしい。また、一部で良いから作品を読んでもらいたい。日本の伝統文化が書物や演劇などの状態で保存されていることに感動してほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前に取り上げる作品の本文を読む、または梗概を理解しておく 事後は特質や本文の理解、読破に努めてほしい。 期間中の学修：できるだけ作品に接し、通読してほしい。					
課 題 と 評 価 の 方 法	授業態度・教場レポート50%、学期末レポート50%で評価します。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	はじめに				授業1回あたり4時間	
2	上代の文学『古事記』『日本書紀』『万葉集』					
3	初期物語『竹取物語』『伊勢物語』					
4	古代勅撰和歌集『古今和歌集』					
5	古代随筆『枕草子』					
6	王朝物語『源氏物語』					
7	歴史物語『栄花物語』『大鏡』					
8	日記文学『土佐日記』『更級日記』					
9	説話文学『今昔物語集』					
10	軍記文学『平家物語』					
11	中世和歌集『新古今和歌集』					
12	浮世草子・井原西鶴					
13	近世俳諧・松尾芭蕉					
14	草双紙、読み本と幕府の改革					
15	まとめ					
関 連 科 目	日本文学史Ⅱ					
資 格	司書の資格取得予定の人は履修してほしい。					
教 科 書	原色シグマ新国語便覧 文英堂					
参 考 資 料						
連 絡 先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み					
備 考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本文学史Ⅱ	2	山本 歩	1年	後期	講義	選択
授業概要	基礎的な教養として、近代日本の文学史を学ぶ。留意して欲しいのは、文学はいわゆる名作（カノン）のみが支えてきたわけではないことだ。そのような観点から、基本的な有名作品を紹介しつつも、今日は無名になった作品や、アマチュアの作品も適宜紹介する。また、調査・考察を要する課題を課す（内容は受講人数等を考慮して決定する）。					
キーワード	近代文学 文学史 小説文化					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学史に明記される有名作品だけでなく、小説文化の様々な発展を理解する。</li> <li>・時代背景を理解した上で、複数の文学作品を横断的に読み、相違点や類似点について考えられる。</li> <li>・また、作品を読む中で過去の文化や思考の型を考察できるような思考を身につける。</li> </ul>					
受講生に望むこと	指定されたテキストを毎回熟読すること。また、授業外でも自主的に近現代の様々な文学作品に触れること。今日からすると読みづらい文章もあるが、あきらめずに読むこと。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：指定された作品・文献を読み、自分なりに感想や意見をまとめる 事後学修：授業内容を踏まえ、それまでに読んだ作品を再読する 期間中の学修：授業で扱うもの以外にも、なるべく多くの文学作品に触れる					
課題と評価の方法	授業態度（教場レポート含む）50% 期末レポート50%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス				前後4時間程度	
2	明治文学史概観					
3	文学の大衆化と卓越化					
4	美文・投書・作法					
5	国木田独歩の作品と受容①					
6	国木田独歩の作品と受容②					
7	雑誌「文章世界」					
8	白樺派の作品と受容					
9	「明治」を離れて					
10	「通俗」作家たち①					
11	「通俗」作家たち②					
12	プロレタリア文学①					
13	プロレタリア文学②					
14	文芸同人誌（リトルマガジン）					
15	まとめ					
関連科目	日本文学史Ⅰ					
資格						
教科書	毎回プリントを配付する。					
参考資料	大橋崇行『言語と思想の言説』（笠間書院）、木村洋『文学熱の時代』（名古屋大学出版会）、北川扶生子『漱石の文法』（水声社）、『日本近代文学大事典』（講談社）など その他、適宜指示する。					
連絡先	yamamoto@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知する。					
備考						

科 目 名		単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
東アジア近現代史		2	北口 英穂	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	日本を知ること、そのためには歴史を知ることが必須ですが、日本の歴史は東アジアの歴史の一翼を担い、さらに東アジアから大いに影響を受けて発展してきました。その意味でも「東アジア」という視点から歴史を見ることが重要です。本講義では、近現代における中国・朝鮮半島の歴史を中心に、日本との関係も交えながら、ひたすら暗記するような歴史ではなく、自分で考えることを目標に進めていきます。						
キ ー ワ ー ド	東アジア史、中国、朝鮮半島、日本						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア近現代の歴史を理解する</li> <li>・東アジアにおける日本の位置づけを把握する</li> </ul>						
受 講 生 に 望 む こ と	現在の問題に関連することも多いので、新聞等のニュースに関心を持つこと						
事前・事後学修期間中の学修	該当する時代について、高校世界史、日本史の教科書に目を通しておくこと						
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点 30% (毎回のシャトルカードへのコメント記述等から評価) 期末試験 70%						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	「歴史」を学ぶこと					<p>事前に次回の該当する時代についての高校世界史、日本史の教科書を読みこんでおくこと (1時間以上目安)。</p> <p>事後その回の授業内容についてノートを確認しながら、参考書等を見ながら自分の考えをまとめること (1時間以上目安)</p>	
2	「東アジア」の解体①						
3	「東アジア」の解体②						
4	革命と中華民国の成立①						
5	革命と中華民国の成立②						
6	国民革命						
7	日本の帝国主義と東アジア①						
8	日本の帝国主義と東アジア②						
9	アジア・太平洋戦争						
10	終戦						
11	戦後「東アジア」の再編①						
12	戦後「東アジア」の再編②						
13	戦後「東アジア」の復興と発展①						
14	戦後「東アジア」の復興と発展②						
15	まとめ						
関 連 科 目							
資 格	日本語教員 (選択必修)						
教 科 書	必要に応じてプリントを配布します。						
参 考 資 料	和田春樹他『東アジア近現代通史 (上)・(下)』(岩波書店、2014年)等						
連 絡 先	wada@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	授業中にアナウンスします。						
備 考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生涯学習概論		2	桑原 由吏子	1年	前期	講義	選択
授業概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策・学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。特に、高齢化の進展や情報技術の発展といった社会情勢に伴う生涯学習の内容の変化、及び生涯学習における図書館の位置づけについて学習する。						
キーワード	社会教育施設、教育行政、学習活動						
到達目標	次の点について理解することを目標とする。 ①生涯学習の体系、社会的役割 ②現代社会における生涯学習の在り方 ③生涯学習における図書館の位置づけ						
受講生に望むこと	・居住地の近隣などの社会教育施設（公民館、図書館、博物館、生涯学習センター等）を積極的に利用・訪問して、生涯学習に関わる活動について問題意識を持って観察することが望ましい。						
事前・事後学修期間中の学修	<事前学修> 教科書の各回の該当ページを通読し理解しておくこと <事後学修> 配布した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること						
課題と評価の方法	レポート 50% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 50% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス 「生涯学習」とは（教科書 p.2～4）					60分	
2	「生涯学習」の意義（教科書 p.2～11）					60分	
3	生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育（教科書 p.12～27、p.34～49）					60分	
4	社会教育の法と行政（教科書 p.52～83、p.28～31）					60分	
5	社会教育施設の種類と役割（教科書 p.86～89）					60分	
6	社会教育施設の役割と機能（1）公民館・公民館類似施設（教科書 p.90～93）					60分	
7	社会教育施設の役割と機能（2）博物館・博物館類似施設（教科書 p.98～101）					60分	
8	社会教育施設の役割と機能（3）青少年教育施設及び女性教育施設（教科書 p.86～89）					60分	
9	社会教育施設の役割と機能（4）その他の社会教育施設（体育施設、文化会館等）（教科書 p.86～89）					60分	
10	社会教育施設としての図書館（教科書 p.94～97）					60分	
11	社会教育施設の管理運営の動向と課題（教科書 p.86～101）					60分	
12	社会教育の内容と方法・形態（教科書 p.104～123）					60分	
13	社会教育指導者と社会教育施設の職員（教科書 p.124～127）					60分	
14	今日的課題と生涯学習（教科書 p.130～153）					60分	
15	まとめ 生涯学習の新たな方向性と図書館 定期試験					60分	
関連科目							
資格	司書（必修）、秘書士（選択）、上級秘書士（選択必修）、情報処理士（選択）、上級情報処理士（選択必修）						
教科書	伊藤俊夫／執筆・編集代表 『新訂生涯学習概論』ぎょうせい、2010年（ISBN：978-4-324-09064-0） 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。						
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	武蔵が丘キャンパス 教務課						
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける						
備考							

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
図書館概論	2	桑原 芳哉	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	司書課程科目の中で、図書館全般に関して基礎的な知識を身につけるための科目である。図書館について最初に学ぶ科目として、現代の図書館を取り巻く状況、図書館の存在意義と役割、歴史的背景などについて具体的事例を踏まえて解説し、図書館全般に関する基本的な位置づけや機能を理解することを目的とする。					
キ ー ワ ー ド	公共図書館、大学図書館、学校図書館、司書、図書館の自由					
到 達 目 標	司書資格取得のために履修する科目として、次の点について理解することを目標とする。 (1) 近年の図書館を取り巻く状況と、図書館の果たす役割 (2) 館種別の図書館の機能と役割 (3) 図書館の法的基盤や行政組織における位置づけ					
受 講 生 に 望 む こ と	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。					
事前・事後学修期間中の学修	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Web サイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。・期間中の学修として、公共図書館を訪問・利用すること、関連図書を読むことを求める。公共図書館の訪問・利用記録及び関連図書の読書記録の提出については、平常点の加点対象とする。					
課 題 と 評 価 の 方 法	評価方法・試験 60% 期末に定期試験を行う。・平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度、「復習用演習問題」等の提出状況などを評価する。平常点の加点・減点方法については、第1回授業で説明する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	ガイダンス：司書課程における本科目の位置づけ、図書館学関係研究雑誌・参考図書の紹介、司書（図書館職員）採用の実態					60分
2	グループワーク (1) 図書館を利用した経験を話し合う／図書館の種類（教科書 p.10～17）					60分
3	図書館とは何か／図書館の機能と社会的役割、意義（教科書 p.10～26）					60分
4	図書館の種類と利用者、類縁機関等 (1) 図書館の種類、公共図書館、国立図書館、学校図書館（教科書 p.79～88）					60分
5	図書館の種類と利用者、類縁機関等 (2) 大学図書館、専門図書館、類縁機関、図書館ネットワーク（教科書 p.88～96）					60分
6	グループワーク (2) 読書と図書館（教科書 p.69～78）					60分
7	図書館の歴史（教科書 p.38～53）					60分
8	公共図書館の成立と展開（教科書 p.54～68）					60分
9	グループワーク (3) 図書館のサービスと職員の仕事（教科書 p.97～114）					60分
10	図書館職員の役割と資格（教科書 p.97～114）					60分
11	知的自由と図書館（教科書 p.27～37）					60分
12	図書館に関する研究と関係団体					60分
13	グループワーク (4) 図書館と書店：借りる本と買う本					60分
14	熊本県及び近隣地域における図書館活動の現状					60分
15	まとめ：図書館の現状と将来（教科書 p.115～132）  定期試験					60分
関 連 科 目	生涯学習概論					
資 格	司書（必修）					
教 科 書	(1) 大串夏身、常世田良／著『図書館概論 第2版』（ライブラリー図書館情報学 2）学文社、2014年（ISBN：978-4-7620-2441-2）  (2) 今まど子、小山憲司／編著『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016年（ISBN：978-4-88367-266-0）  教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。					
参 考 資 料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
連 絡 先	研究室（管理棟4階 研究室14）  メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オ フィ ス ア ワ ー	月曜日 12:10～13:00、火曜日 13:00～14:00					
備 考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
基礎数学 I	2	岡田 則浩	1年	前期	講義	選択
授業概要	<p>中学・高等学校で導入された数学的な技法が持っている意味を捉えなおしながら、数学における概念の表現方法や考え方を意識しつつ、今後必要となる数学的処理を可能とする知識・技能を身につける。また、複雑な計算や大量のデータを扱うために、計算機を利用する方法を学ぶ。実際の学修では、数的思考力の基礎となる関数概念に関する理解を深め、関数を用いた数量の変化を表現することの有用性を学びつつ、今後必要となるであろう「数学的ツール」の理解を深めていく。</p>					
キーワード	数学					
到達目標	式の意味や利用方法を理解し、数学の基礎的な知識を習得する   数学的な考え方や論理を身につける					
受講生に望むこと	「数学を理解したい」「数学がわかるようになりたい」「数学を楽しみたい」等の気持ちを持って積極的に臨んでいただきたい。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>事前学修：高等学校までの教科書・問題集を常に参照できるようにしておく対象範囲を予習し、自身の理解度を確認する          事後学修：学んだ範囲を復習し、演習問題に多く取り組む          期間中の学修：授業の復習だけでなく、自ら演習問題を探し多く取り組む</p>					
課題と評価の方法	演習 60%、小テスト 40%（レポート、課題等に代える場合あり）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	イントロダクション, 数列 と 記号 $\Sigma$				<p>毎授業前、授業予定範囲を通読すること (0.5h 以上)</p> <p>毎授業後、授業内容の復習と、自ら演習問題を探し、できるだけ多く取り組むこと (1.5h 以上)</p> <p>上記時間はあくまで目安である。実際に必要な時間は個人ごとに異なることに留意されたい。</p>	
2	数と数式：整式，加減乗除，展開					
3	数と数式：因数分解					
4	数と数式：剰余の定理，因数定理					
5	数と数式：分数式，因数分解					
6	方程式と不等式					
7	関数：1次関数，2次関数，高次関数					
8	指数関数					
9	対数関数					
10	指数方程式，対数方程式					
11	三角比					
12	三角関数					
13	正弦定理，余弦定理					
14	順列，組み合わせ					
15	確率					
<p>学生の理解に応じて適宜内容変更予定          進み具合によって「数学とPC（関数，方程式）」等を実施</p>						
関連科目						
資格						
教科書	<p>1. “一般系学生のための 基礎から学べる数学”，理工図書，978-4-8446-0846-2，本体 2800 円。          2. 高等学校までに使用した各自の教科書。</p>					
参考資料	“大学新入生のためのリメディアル数学（第2版）”，森北出版，978-4-627-05202-4，本体 2400 円。					
連絡先	okada-1ec@shokei-u.jp					
オフィスアワー	学修支援時間（月曜午後を予定）または 水曜 11:00～12:50。					
備考	文化言語学部 文化言語学科 「基礎数学」と同時開講					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
基礎数学Ⅱ	2	岡田 則浩	1年	後期	講義	選択
授業概要	基礎数学Ⅰに引き続き、今後必要とされる「数学的ツール」、特に命題、集合、論理といった論理学の基礎を学び、あわせて数列の基礎と数学的帰納法を理解する。具体的な目標は、命題の真理から集合論、論理学の基礎を理解し、あわせて基本的な数列を理解することによって、関数との関連を理解し、身近な問題に関連する問題解決能力を育成するという点である。また、時間が許せば、多変数の扱いを可能にする道具として、ベクトル、行列、線型代数にも取り組む。					
キーワード	数学					
到達目標	式の意味や利用方法を理解し、数学の基礎的な知識を習得する 数学的な考え方や論理を身につける					
受講生に望むこと	「数学を理解したい」「数学がわかるようになりたい」「数学を楽しみたい」等の気持ちを持って積極的に臨んでいただきたい。					
事前・事後学修期間中の学修	<事前学修> 高等学校までの教科書・問題集を常に参照できるようにしておく対象範囲を予習し、自身の理解度を確認する <事後学修> 学んだ範囲を復習し、演習問題に多く取り組む <期間中の学修> 授業の復習だけでなく、自ら演習問題を探し多く取り組む					
課題と評価の方法	演習 60%、小テスト 40%（レポート、課題等に代える場合あり）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	イントロダクション				毎授業前、授業予定範囲を通読すること（0.5h以上）   毎授業後、授業内容の復習と、自ら演習問題を探し、できるだけ多く取り組むこと（1.5h以上）   上記時間はあくまで目安である。実際に必要な時間は個人ごとに異なることに留意されたい。	
2	数列：等差数列，等比数列					
3	数列： $\Sigma$ 記号					
4	数列：漸化式					
5	数学的帰納法					
6	集合					
7	命題と集合					
8	順列，組合せ					
9	確率					
10	統計処理入門					
11	$\Sigma$ の計算					
12	行列計算					
13	確率					
14	統計計算紹介					
15	アルゴリズム，パズル					
	学生の理解に応じて適宜内容変更予定 進み具合によって「数学とPC（関数，方程式）」等を実施					
関連科目						
資格						
教科書	“一般系学生のための基礎から学べる数学”，理工図書，978-4-8446-0846-2，本体2800円（基礎数学Ⅰと同一）。					
参考資料	“大学新入生のためのリメディアル数学（第2版）”，森北出版，978-4-627-05202-4，本体2400円。					
連絡先	okada-1ec@shokei-u.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知する					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理 I	1	金賀 誠一	1年	前期	演習	必修
授業概要	<p>社会人として必須の技能であるワープロの基本操作、電子メールおよびセキュリティの基本について修得する。具体的には、まずパソコンやワープロの基本操作、イラストや写真を文章に挿入する技法、そして、表作成、基本的なビジネス文書の作成方法からはがき作成、地図作成など、社会人として一般的に必要なとされるコンピュータ関連スキルを修得する。さらに、インターネットを利用する上での基礎知識、電子メールの基礎知識、基本操作、書類添付、セキュリティ対策などについても修得する。</p>					
キーワード	Windows 基本操作、ワープロ、文書編集、ビジネス文書、電子メール、セキュリティ対策					
到達目標	<p>文字入力速度が20WPMで正確さが93%を超え、ワープロの基本操作、ビジネス文書が作成できること。 電子メールについての知識と操作方法を習得し、日常のセキュリティ対策ができること。</p>					
受講生に望むこと	<p>前回の学習や設定などを利用して作業を行うので、遅刻欠席をせずに毎回必ず出席すること。 解らないことをそのままにせず、その場で質問して解決すること。</p>					
事前・事後学修期間中の学修	<p>事前学修：TypeQuick または実習問題を演習する。 事後学修：実習問題の必須課題または選択課題を演習する。 期間中の学修：大学から付与されたメールを必ず確認し、事前事後合わせて1時間実習問題を演習する。</p>					
課題と評価の方法	<p>課題：課題は必須課題と選択課題があり、必須課題は必ず提出して合格しなければならない。不合格の場合は次回授業時に返却する。選択課題は提出しなくてもよいが、提出した場合は試験点数へ補点する。評価：タッチタイピングが規定値(20WPM, 93%)を超え、必須課題を全て合格した上で、学期末に実施する文書作成の筆記と実技試験の合計が60点以上で合格となる。なお、選択課題が合格している場合は、1つの課題を1点として、試験点数に加点する。但し、加点は試験点数が60点未満の場合に加点し、合計60点を上限とする。</p>					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	パソコンの基本操作 1	アカウント説明、起動終了、パソコンの必要最低限の操作				事前事後計 1時間
2	パソコンの基本操作 2	タイプクイック演習設定、データ同期、USBメモリの取出方法				事前事後計 1時間
3	Word 入門	Wordの起動終了、文字入力訂正、漢字変換、記号入力				事前事後計 1時間
4	文章の入力	文章の入力、保存、読み出し、文書印刷				事前事後計 1時間
5	電子メールの基本 1	メールソフトの設定、送受信、返信転送、アドレス帳設定、				事前事後計 1時間
6	電子メールの基本 2	電子メールの仕組み、ネチケット、ヘッダ				事前事後計 1時間
7	電子メールの基本 3	添付方法、テキストファイルとバイナリファイル、セキュリティ				事前事後計 1時間
8	Wordの活用 1	表の挿入、列幅変更、セルの結合、線種変更				事前事後計 1時間
9	Wordの活用 2	クリップアートの挿入、サイズ変更、移動、回転				事前事後計 1時間
10	Wordの活用 3	ワードアート挿入編集、図形描画、スクリーンショット				事前事後計 1時間
11	Wordの活用 4	スマートアート挿入編集、段組み、ドロップキャップ				事前事後計 1時間
12	Wordの応用 1	はがき作成、宛名面の作成、文面作成、差し込み印刷				事前事後計 1時間
13	Wordの応用 2	グラフ挿入、データ編集、レイアウト変更				事前事後計 1時間
14	DTP機能の活用	文字の基礎知識、フォント、テキストボックスの行間				事前事後計 1時間
15	セキュリティ対策	セキュリティ対策ビデオを参照しレポートを作成				事前事後計 1時間
関連科目	情報処理 II					
資格	プレゼンテーション実務士選択必修科目、日商 PC 検定（文書作成）検定試験関連科目					
教科書	30時間でマスター Word2016 実教出版 ISBN:978-4-407-34020-4  キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB 版 日本データパシフィック					
参考資料	キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB 版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理 II でも継続使用する。					
連絡先	E-Mail：kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：管理棟 3F 研究室 10					
オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50  金曜日 12:30～13:30					
備考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
情報処理Ⅱ	1	金賀 誠一	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	現代の社会人として必須の技能である表計算の基本操作およびプレゼンテーションソフトの基本操作について修得する。表計算では、ビジネスに必須の表計算の基本操作、合計、平均、絶対参照、条件判断等の各種関数を用いたワークシートの集計作業、そして、棒グラフに代表されるグラフ作成技術や印刷上の注意、データベースや応用に関する事項などを実習を通して理解する。プレゼンテーションでは、自分の考えを複数の人に効果的に伝える技術とプレゼンテーションソフトの基本操作を修得する。					
キ ー ワ ー ド	Excel, 表計算, ワークシート, グラフ, データベース, プレゼンテーション, PowerPoint					
到 達 目 標	基本的なプレゼンテーション資料を作成できること。 表計算の合計や平均など基本的な関数を用いた集計作業ができ、適切なグラフが作成できること。					
受 講 生 に 望 む こ と	前回の演習結果や設定などを利用して次の作業を行うので、遅刻や欠席をせず毎回必ず出席すること。 解らないことをそのままにせずに、その場で質問して解決すること。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修：Type Quick のテンキーまたは実習問題を演習する。 事後学修：実習問題の必須課題または選択課題を演習する。 期間中の学修：大学から付与されたメールを必ず確認し、事前事後合わせて1時間課題を演習する。					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：課題は必須課題と選択課題があり、必須課題は必ず提出して合格しなければならない。不合格の場合は次回授業時に返却する。選択課題は提出しなくてもよいが、提出した場合は試験点数へ補点する。評価：必須課題を全て合格した上で、学期末に実施する表計算実技試験で60点以上で合格となる。なお、選択課題が合格している場合、1つの課題を1点として試験点数に加算する。但し、加点は試験点数が60点未満の場合に加算し合計60点を上限とする。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	プレゼンテーション1	良いプレゼンテーション、スライドの作成編集効果印刷			事前事後計1時間	
2	プレゼンテーション2	課題スライドの作成			事前事後計1時間	
3	Excelの基礎知識	Excelの起動・終了、データ入力、合計、保存と呼出			事前事後計1時間	
4	グラフの作成と印刷	グラフ作成、サイズ変更、移動、演習問題			事前事後計1時間	
5	ワークシートの活用(1)	編集、削除、移動、挿入、列幅、平均、表示形式			事前事後計1時間	
6	ワークシートの活用(2)	罫線、絶対参照、表示形式の変更			事前事後計1時間	
7	ワークシートの活用(3)	最大、最小、カウント、四捨五入			事前事後計1時間	
8	ワークシートの活用(4)	条件の判定、条件付き書式			事前事後計1時間	
9	グラフ(1)	棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ			事前事後計1時間	
10	グラフ(2)	3Dグラフ、複合グラフ、ドーナツ			事前事後計1時間	
11	グラフ(3)	レーダーチャート、XYグラフ、絵グラフ			事前事後計1時間	
12	データベース(1)	データベース入門、データの並べ替え			事前事後計1時間	
13	データベース(2)	データ検索抽出、条件記述方法、データ集計			事前事後計1時間	
14	Excelの応用(1)	順位付け、データ探索、文字列加工、文字列の操作、			事前事後計1時間	
15	Excelの応用(2)	シート間の計算、WordへExcelの埋め込み			事前事後計1時間	
関 連 科 目	情報処理Ⅰ					
資 格	プレゼンテーション実務士選択必修科目、日商PC検定(データ活用)検定試験関連科目、情報処理技能検定関連科目					
教 科 書	30時間でマスター Excel2016 実教出版 ISBN: 978-4-407-34021-1 キーボード練習ソフト: Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック					
参 考 資 料	キーボード練習ソフト: Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理Ⅰより継続使用					
連 絡 先	E-Mail: kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス: 管理棟 3F 研究室 10					
オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50   金曜日 12:30～13:30					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
課題探求プロジェクト入門	2	水谷 智彦	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	社会調査とはどのような営みであるのかを学ぶと同時に、地域の課題について学生自ら問題関心を立てつつ調査を計画し、実践することで、基本的な調査スキルを身につける活動をおこなう。					
キ ー ワ ー ド	社会調査、量的調査、質的調査					
到 達 目 標	社会調査の意義や種類、プロセスに関する基礎的な知識を身につける。 地域の課題に関する調査やそれを踏まえたレポート作成をおこなうことで、基本的な調査スキルを身につける。					
受 講 生 に 望 む こ と	地域の課題について、自らの問題関心をもって授業に臨むこと。 調査にあたっては計画段階から実施にいたるまで、主体的に取り組むこと。					
事前・事後学修期間中の学修	事前（2時間）・事後（2時間）を学修時間の目安とする。授業時間外には授業内に指定された文献読解、あるいは課題に取り組み、最終的なレポート作成を目指した学修をおこなうものとする。					
課 題 と 評 価 の 方 法	調査活動への取り組み（50％） レポート（50％）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	イントロダクション 社会調査の目的と意義				事前学習 2時間 事後学習 2時間	
2	社会調査の歴史					
3	調査の種類と実例 国勢調査・官庁統計・世論調査・市場調査・学術調査					
4	調査倫理					
5	量的調査 (1) 量的調査とは何か					
6	量的調査 (2) 量的調査の実例					
7	質的調査 (1) 質的調査とは何か					
8	質的調査 (2) 質的調査の実例					
9	社会調査の実践 (1) 問いを立てる					
10	社会調査の実践 (2) データを集める					
11	社会調査の実践 (3) データを分析する					
12	レポートを書く (1) 論文・レポートの形式					
13	レポートを書く (2) テーマ・問題の設定～本文の組み立て方					
14	レポートを書く (3) 提出前のチェック事項					
15	まとめ					
関 連 科 目	現代文化学部すべての科目に関連する。					
資 格	プレゼンテーション実務士（選択必修）、社会調査士（必修）					
教 科 書	特になし					
参 考 資 料	授業中適宜紹介する。					
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス 1号館2階 水谷研究室 mizutani@shokei-gakuen.ac.jp					
オ フィ ス ア ワ ー	初回授業時に通知する。					
備 考	・ 学外学修をおこなう場合に係る交通費等は各自で負担する。なお、天候等の事情で予定の変更が生じることもある。 ・ 講師のスケジュール等により、授業計画が変更になることもある。事前に連絡するので、きちんと確認すること。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
社会調査法	2	黄 蘊	1年	前期	講義	選択
授 業 概 要	本講義では、社会調査を実施する際に必要となる知識について基礎的なことを学んでもらう。調査の立案から報告書の作成まで、調査全体について一貫した知識を身につけることを目指す。社会調査の計画から報告書の作成までの方法論を連続的に修得し、調査実施者としての基本的技術を身につけることが本講義の到達目標である。授業内容の一環として、大津町で現地調査も予定されている。					
キ ー ワ ー ド	調査データ、調査レポート、インタビュー調査					
到 達 目 標	社会調査の計画から報告書の作成までの方法論を連続的に修得し、調査実施者としての基本的技術を身につけること。					
受 講 生 に 望 む こ と	授業および現地調査に積極的に取り組んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	<事前学修> 前回の授業で取り組んだ内容について復習しておくこと。 <事後学修> 授業の要点を整理し、しっかり復習しておくこと。 <期間中の学修> 授業内課題に積極的に取り組むこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点 30%、期末テストまたは期末レポート 70%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	社会調査の目的と意義				事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。	
2	仮説構築の方法					
3	調査の設計、調査対象者の選定					
4	量的調査の実例					
5	質的調査の実例					
6	調査票の構成と質問文の作成方法についての確認					
7	調査の方法（実査の方法、アンケート調査とヒヤリング調査の手法）					
8	大津町で現地調査 ①					
9	大津町で現地調査 ②					
10	大津町で現地調査 ③					
11	調査データの整理					
12	調査データの分析					
13	調査レポートの書き方 ①					
14	調査レポートの書き方 ②					
15	まとめ					
関 連 科 目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域振興論、地域政策論					
資 格	社会調査士（必修）					
教 科 書	とくになし。授業中にプリントを配布する。					
参 考 資 料						
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F E-mail: huang@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	月曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communicative Grammar I	1	竹下 裕俊	1年	前期	演習	必修
授 業 概 要	テキストの練習問題を解きながら、英語を苦手とする学生も無理なく、話す、聞く、書く、読むの4技能のレベルアップを図る。あわせて、基本的な文法事項についても、ひとつひとつ理解を確かなものにしていく。					
キ ー ワ ー ド	英語4技能、基本文法					
到 達 目 標	様々な英語基礎練習を積み上げることで、スピーキング運用能力の養成へつなげることを目標とする。					
受 講 生 に 望 む こ と	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中は特に集中して聞き取る努力をすること。					
事前・事後学修期間中の学修	復習には十分な時間をかけ、不明な箇所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。					
課 題 と 評 価 の 方 法	定期的な確認テストの結果により評価する。出席状況、受講態度の良い者は評価の対象にならないので注意すること。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	授業内容、評価方法等についての説明（オリエンテーション）				15時間	
2	Unit 1: 英文における主語の設定					
3	Unit 2: 「品詞」ってどんなもの？					
4	Unit 1とUnit 2の確認テスト及びUnit 3: 英語のスタイルは使われる動詞で決まる Part 1					
5	Unit 3: 英語のスタイルは使われる動詞で決まる Part 1					
6	Unit 4: 英語のスタイルは使われる動詞で決まる Part 2					
7	Unit 3とUnit 4の確認テスト及びUnit 5: 述語動詞の形で時制を決める Part 1					
8	Unit 5: 述語動詞の形で時制を決める Part 1					
9	Unit 6: 「それは」と訳さない“it”と「そこ」と訳さない“there”					
10	Unit 5とUnit 6の確認テスト及びUnit 7: [動詞-ing]は「(今)～している」という意味だけじゃない					
11	Unit 7: [動詞-ing]は「(今)～している」という意味だけじゃない					
12	Unit 8: 述語動詞の形で時制を決める Part 2					
13	Unit 7とUnit 8の確認テスト及びUnit 9: 〈前置詞+名詞〉で表現の幅を広げる Part 1					
14	Unit 9: 〈前置詞+名詞〉で表現の幅を広げる Part 1					
15	Unit10: 〈前置詞+名詞〉で表現の幅を広げる Part 2 及び確認テスト					
関 連 科 目	Communicative Grammar II, III					
資 格	日本語教員（必修）					
教 科 書	Grammar on Target 出版社 National Geographic Learning ￥2,000（税別）					
参 考 資 料	適宜紹介する。					
連 絡 先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟4階（武蔵ヶ丘キャンパス）					
オ フィ ス ア ワ ー	初回講義時に通知する。					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communicative Grammar I	1	ジョシュ・ノーマン	1年	前期	演習	必修
授 業 概 要	この科目は、Communicative Grammarの基礎的なレベルを学習するクラスである。近年、英語学習においてややもすると文法を軽視する風潮が一部に見られた。しかし、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の能力を確実に高めるためには、正確な文法理解は必要不可欠である。授業では、「読む」「書く」の場面で従来重視されてきた文法の学習だけではなく、広く実践的運用能力の向上も視野に入れ、徹底した学習訓練を行う。					
キ ー ワ ー ド	English, grammar, communication					
到 達 目 標	After completing this course, students should be able to utilize their skills gained through use of the IXL website to write simple English sentences using the correct grammar and speak simple English with the correct pronunciation.					
受 講 生 に 望 む こ と	Since this is a class that uses the IXL.com website for all of its activities, students should have a positive attitude toward asking questions to the teacher if they don't understand something. Also, students will be expected to study on the website outside of class as well. Students should make sure to always bring a dictionary to class.					
事前・事後学修期間中の学修	Students should use the IXL website at least 1 hour outside of class each week for homework. Student progress, including the amount of time spent on the website, will be monitored by the instructor.					
課 題 と 評 価 の 方 法	IXL website use (80%), participation and attitude (20%)					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	Orientation and class placement test				1 hour per class	
2	Introduction to class plus IXL website and examples					
3	1st grade level--->Consonants and vowels (A), Rhyming (B), and Blending/segmenting (C)					
4	1st grade level--->Consonant sounds/letters (D), and Consonant blends/digraphs (E)					
5	1st grade level--->Short vowels (F) and short/long vowels (G)					
6	1st grade level--->Long vowels (H), R-controlled vowels (I), and Diphthongs: oi, oy, ou, ow (J)					
7	1st grade level ---> Syllables (K), Sight words (L), and Sentences (M)					
8	1st grade level ---> Nouns (N), Pronouns, (O), and Verbs (P)					
9	1st grade level ---> Articles (Q), Adjectives (R), and Prepositions (S)					
10	1st grade level ---> Transitions and sequence (T), Contractions (U), and Capitalization (V)					
11	1st grade level ---> Alphabetical order (W), Word meanings (X), and Literacy skills (Y)					
12	2nd grade level --> Rhyming (A), Consonant blends and digraphs (B) and short vowels (C)					
13	2nd grade level --> Short and long vowels (D), long vowels (E), and R-controlled vowels (F)					
14	2nd grade level --> Diphthongs: oi, oy, ou, ow (G), Variant vowels (H), and Soft g and c (I)					
15	2nd grade level --> Syllables (J), Sight words (K), Reading comprehension strategies (L)					
関 連 科 目	Communicative Grammar II, Communicative Grammar III					
資 格	日本語教員 (必修)					
教 科 書	None. Handouts and IXL website will be used.					
参 考 資 料						
連 絡 先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F					
オ フィ ス ア ワ ー	See schedule on my office door. (Building 1, 2nd floor)					
備 考	Placement test will determine who can take this class.					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
Communicative Grammar I		1	柚木 繁之	1年	前期	演習	必修
授業概要	英語（言語）学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない学習者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。本科目では、初級の英文法を確認しながら、練習問題、読解問題等を解く中で、社会生活において英語で意思疎通を行うために必要な基礎的な英語力の定着を目指します。						
キーワード	Communicative Strategies in English, Basic English Grammar						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における、英語での意思疎通に必要な基礎的な英語力を定着させること。</li> <li>・基本的な文法項目の習得。</li> <li>・我が国における英語習得の目的について理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について理解を深めること。</li> <li>・その他</li> </ul>						
受講生に望むこと	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的にさらに発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。積極的に授業へ参加するとともに、理解できないところがあれば、同じく積極的に質問して下さい。						
事前・事後学修期間中の学修	授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成等を終点とせず、教科書執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。期間中は、これら事前・事後学修事項に留意しつつ意欲的に学修に取り組むとともに、授業者が適宜指示する事項についても従うこと。						
課題と評価の方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定)						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	コース・オリエンテーション： 本科目の方針・修得目標等の説明					授業1回あたり1時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するために各自が要する時間。	
2	Self Introductions 「be 動詞」と言われるもの 1/2 (音声指導, 解説, 演習など)						
3	Self Introductions 「be 動詞」と言われるもの 2/2 (同上 以降同様)						
4	Friends 一般動詞の自動詞と他動詞の見分けは重要か 1/2						
5	Friends 一般動詞の自動詞と他動詞の見分けは重要か 2/2						
6	Hometown 現在完了形の出番とは 1/2						
7	Hometown 現在完了形の出番とは 2/2						
8	Weekend Activities 質問文か疑問文か 1/2						
9	Weekend Activities 質問文か疑問文か 2/2						
10	Eating Out 不可算名詞は数えることはできないのか 1/2						
11	Eating Out 不可算名詞は数えることはできないのか 2/2						
12	Free Time Activities 動詞の分詞について						
13	筆記演習活動1						
14	筆記演習活動2						
15	総括						
関連科目	「Communicative Grammar II・III」, 「Communication Workshop I・II・III」ほか						
資格	英語検定, TOEIC, TOEFLなどの各種英語試験						
教科書	Taking Action - Communication with Fluency and Accuracy - 山本成代・Kelly Kimura KINSEIDO (ISBN: 978-4-7647-4062-4)						
参考資料	英和・和英辞書(電子辞書使用可) その他は、授業中に適宜指示する。						
連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP電話: 050-5532-7900 (録音) 研究室: 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室						
オフィスアワー	前期: 火 12:15-13:00・火 16:20-17:05 後期: 水 12:15-13:00・水 13:55-14:40 ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム(メニュー[授業関連]-[教員時間割])あるいは学生支援課掲示を確認すること。						
備考	評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communicative Grammar II	1	竹下 裕俊	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	テキストの練習問題を解きながら、英語を苦手とする学生も無理なく、話す、聞く、書く、読むの4技能のレベルアップを図る。あわせて、基本的な文法事項についても、ひとつひとつ理解を確かなものにしていく。					
キ ー ワ ー ド	英語4技能、基本文法					
到 達 目 標	様々な英語基礎練習を積み上げることで、スピーキング運用能力の養成へつなげることを目標とする。					
受 講 生 に 望 む こ と	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中は特に集中して聞き取る努力をすること。					
事前・事後学修期間中の学修	復習には十分な時間をかけ、不明な箇所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。					
課 題 と 評 価 の 方 法	定期的な確認テストの結果により評価する。出席状況、受講態度の良い者は評価の対象にならないので注意すること。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	Unit 11: 否定文や疑問文はどう表現する?				15時間	
2	Unit 12: 助動詞が表すニュアンスの違い					
3	Unit 11とUnit 12の確認テスト及びUnit 13: 丁寧な依頼や勧誘にはwouldとcouldを使う					
4	Unit 13: 丁寧な依頼や勧誘にはwouldとcouldを使う					
5	Unit 14: 形容詞や副詞を使って比較する					
6	Unit 13とUnit 14の確認テスト及びUnit 15: 接続詞が果たす役割とは?					
7	Unit 15: 接続詞が果たす役割とは?					
8	Unit 16: 〈to + 動詞の原形〉が表す意味					
9	Unit 15とUnit 16の確認テスト及びUnit 17: 〈to + 動詞の原形〉を用いる構文とは?					
10	Unit 17: 〈to + 動詞の原形〉を用いる構文とは?					
11	Unit 18: [動詞-ing] が表す意味とは?					
12	Unit 17とUnit 18の確認テスト及びUnit 19: 過去分詞の働きとは?					
13	Unit 19: 過去分詞の働きとは?					
14	Unit 20: 過去～現在へと続く時制の感覚をつかむ					
15	Unit 19とUnit 20の確認テスト 及び全体のまとめ					
関 連 科 目	Communicative Grammar I, III					
資 格	日本語教員(必修)					
教 科 書	Grammar on Target 出版社 National Geographic Learning ¥2,000 (税別)					
参 考 資 料	適宜紹介する。					
連 絡 先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟4階(武蔵ヶ丘キャンパス)					
オ フィ ス ア ワ ー	初回講義時に通知する。					
備 考	Communicative Grammar Iと同じ教科書を使用。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communicative Grammar II	1	ジョシュ・ノーマン	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	この科目は、基礎的なレベルを踏まえて、Communicative Grammarの発展的レベルを学習するクラスである。近年、英語学習においてややもすると文法を軽視する風潮が一部に見られた。しかし、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の能力を確実に高めるためには、正確な文法理解は必要不可欠である。授業では、「読む」「書く」の場面で従来重視されてきた文法の学習だけではなく、広く実践的運用能力の向上も視野に入れ、徹底した学習訓練を行う。(This is a continuation of the Communicative Grammar I class.)					
キ ー ワ ー ド	English, grammar, communication					
到 達 目 標	After completing this course, students should be able to utilize their skills gained through use of the IXL website to write simple English sentences using the correct grammar and speak simple English with the correct pronunciation.					
受 講 生 に 望 む こ と	Since this is a class that uses the IXL.com website for all of its activities, students should have a positive attitude toward asking questions to the teacher if they don't understand something. Also, students will be expected to study on the website outside of class as well. Students should make sure to always bring a dictionary to class.					
事 前 ・ 事 後 学 修 期 間 中 の 学 修	Students should use the IXL website at least 1 hour outside of class each week for homework. Student progress, including the amount of time spent on the website, will be monitored by the instructor.					
課 題 と 評 価 の 方 法	IXL website use (80%), participation and attitude (20%)					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事 前 ・ 事 後 学 修 の 目 安	
1	2nd grade level --> Independent reading comprehension (M)				1 hour per class	
2	2nd grade level --> Sentence structure (N)					
3	2nd grade level --> Nouns (O) and Pronouns (P)					
4	2nd grade level --> Verbs (Q)					
5	2nd grade level --> Articles (R) and Adjectives/adverbs (S)					
6	2nd grade level --> Prepositions (T) and Transitions/sequence (U)					
7	2nd grade level --> Contractions (V), Punctuation, etc. (W), and Prefixes/suffixes (X)					
8	2nd grade level --> Reference skills (Y), Word meanings (Z)					
9	3rd grade level --> Sentence structure (A)					
10	3rd grade level --> Nouns (B)					
11	3rd grade level --> Pronouns (C)					
12	3rd grade level --> Verbs (D)					
13	3rd grade level --> Articles (E) and Adjectives and adverbs (F)					
14	3rd grade level --> Prepositions (G) and Conjunctions (H)					
15	3rd grade level --> Contractions (I), Commas (J), and Capitalization (K)					
関 連 科 目	Communicative Grammar I, Communicative Grammar III					
資 格	日本語教員(必修)					
教 科 書	None. Handouts and IXL website will be used.					
参 考 資 料						
連 絡 先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス: 大学1号館 2F					
オ フィ ス ア ワ ー	See schedule on my office door. (Building 1, 2nd floor)					
備 考	Placement test will determine who can take this class.					

科 目 名		単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communicative Grammar II		1	柚木 繁之	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	英語（言語）学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない学習者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。本科目では、初級の英文法を確認しながら、練習問題、読解問題等を解く中で、社会生活において英語で意思疎通を行うために必要な発展的英語力の定着を目指します。						
キ ー ワ ー ド	Communicative Strategies in English, Basic English Grammar						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における、英語での意思疎通に必要な基礎的な英語力を定着させること。</li> <li>・基本的な文法項目の習得。</li> <li>・我が国における英語習得の目的について理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について理解を深めること。</li> <li>・その他</li> </ul>						
受 講 生 に 望 む こ と	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的にさらに発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。積極的に授業へ参加するとともに、理解できないところがあれば、同じく積極的に質問して下さい。						
事 前 ・ 事 後 学 修 期 間 中 の 学 修	授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成等を終点とせず、教科書執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。期間中は、これら事前・事後学修事項に留意しつつ意欲的に学修に取り組むとともに、授業者が適宜指示する事項についても従うこと。						
課 題 と 評 価 の 方 法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定)						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事 前 ・ 事 後 学 修 の 目 安	
1	コース・オリエンテーション： 本科目の方針・修得目標等の説明					授業1回あたり1時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するために各自が要する時間。	
2	Transportation 受動態を使うべき表現 1/2 (音声指導、解説、演習など)						
3	Transportation 受動態を使うべき表現 2/2 (同上 以降同様)						
4	My Place 前置詞の選び方 1/2						
5	My Place 前置詞の選び方 2/2						
6	Vacation Plans 未来の時制 1/2						
7	Vacation Plans 未来の時制 2/2						
8	Travel 形容詞の級 1/2						
9	Travel 形容詞の級 2/2						
10	Shopping 関係代名詞 1/2						
11	Shopping 関係代名詞 2/2						
12	Careers 関係副詞						
13	筆記演習活動1						
14	筆記演習活動2						
15	総括						
関 連 科 目	「Communicative Grammar I・III」, 「Communication Workshop I・II・III」ほか						
資 格	英語検定, TOEIC, TOEFLなどの各種英語試験						
教 科 書	Taking Action - Communication with Fluency and Accuracy - 山本成代・Kelly Kimura KINSEIDO (ISBN: 978-4-7647-4062-4)						
参 考 資 料	英和・和英辞書（電子辞書使用可） その他は、授業中に適宜指示する。						
連 絡 先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室						
オフィスアワー	前期：火12:15-13:00・火16:20-17:05 後期：水12:15-13:00・水13:55-14:40 ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム（メニュー[授業関連]-[教員時間割]）あるいは学生支援課掲示を確認すること。						
備 考	評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communication Workshop I	1	竹下 裕俊	1年	前期	演習	必修
授 業 概 要	文化と社会、生活と環境、ビジネスと出張、観光とニュースといった4つのジャンルのトピックについて、リーディング、ライティング、リスニングの練習問題に取り組みながら、英語の基礎固めを図り、総合的な英語力の強化につなげる。					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション					
到 達 目 標	主体的に英語に親しみながら、英語力の向上を図る中で、自ら考え、判断し、課題を解決する思考力をあわせて養う。					
受 講 生 に 望 む こ と	辞書を引く労を厭わないこと。					
事前・事後学修期間中の学修	復習には十分な時間をかけ、不明な個所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。					
課 題 と 評 価 の 方 法	定期的な確認テストの結果により評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	授業内容、評価方法等についての説明（オリエンテーション）				15時間	
2	Unit 1: The Royal Family					
3	Unit 2: The Beatles					
4	Unit 1 と Unit 2 の確認テスト及び解説・まとめ					
5	Unit 3: Very Cold					
6	Unit 4: Euro Money					
7	Unit 3 と Unit 4 の確認テスト及び解説・まとめ					
8	Unit 5: To Your Health					
9	Unit 6: Recycling					
10	Unit 5 と Unit 6 の確認テスト及び解説・まとめ					
11	Unit 7: The UK					
12	Unit 8: A Quiet Life					
13	Unit 7 と Unit 8 の確認テスト及び解説・まとめ					
14	Unit 9: My Company					
15	Unit 9 の確認テスト及び解説・まとめ、全体の振り返り					
関 連 科 目	Communication Workshop II、Communication Workshop III					
資 格	日本語教員（必修）					
教 科 書	English Indicator 1 [Essential] 出版社：南雲堂 ￥2,160（税込）					
参 考 資 料	授業中に適宜指示する。					
連 絡 先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟4階（武蔵ヶ丘キャンパス）					
オ フィ ス ア ワ ー	初回講義時に通知する。					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communication Workshop I	1	ジョシュ・ノーマン	1年	前期	演習	必修
授 業 概 要	この科目の主な目的は、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を練磨し、実戦的な中にも偏りのない英語運用能力の向上を図ることである。授業では、基礎的なレベルのテキスト及びその他の学習教材を利用する。併せて、受講生同士のディスカッションやプレゼンテーションを始めとする様々な訓練・演習によって、英語で自らを表現する能力や、他者を理解する能力を身に付ける。受講生には、自らの英語力を測る指標として、TOEICの受験を強く推奨する。This class will use a basic-level English textbook (with DVD) to learn about and discuss differences between Japanese and American culture.					
キ ー ワ ー ド	English, communication, the United States, culture					
到 達 目 標	After taking this course, students should have be able to talk about U.S. culture using simple English words and expressions.					
受 講 生 に 望 む こ と	Although the textbook has some parts written in Japanese, the class will be mainly (90%) taught in English, so students should be proactive and ask questions if they don't understand.					
事 前 ・ 事 後 学 修 期 間 中 の 学 修	(1 hour per class) Students should prepare for classes by reading the textbook before coming to class and using a dictionary to check words/phrases they do not understand. Then, after class, students should do any assigned homework or re-read the material discussed in class. All textbooks come with a DVD, so students can use the DVD at home to deepen their understanding of the material.					
課 題 と 評 価 の 方 法	Quiz (50%), participation/attitude (30%), and homework (20%)					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事 前 ・ 事 後 学 修 の 目 安	
1	Orientation and class placement test				1 hour per class	
2	Introduction to class plus scene 1 - It's So Nice to Meet You!					
3	Scene 2 - Is He a Popular Professor?					
4	Scene 3 - He Showed Me "a" Way					
5	Scene 4 - For Here or To Go (→ Scene 5 for homework)					
6	Scene 6 - Catching a Cab					
7	Scene 7 - How Romantic!					
8	Scene 8 - I'm Not Feeling Well					
9	Scene 9 - Tickets for a Yankees Game					
10	Scene 10 - What's on the Shopping List?					
11	Scene 11 - MoMA Is Fun! (→ Scene 12 for homework)					
12	Scene 13 - Who Is That Guy?					
13	Scene 14 - You're My Best Friend					
14	Scene 15 - We're Going to Be Late					
15	Final quiz and review of all scenes					
関 連 科 目	Communication Workshop II, Communication Workshop III					
資 格	日本語教員 (必修)					
教 科 書	"Hello New York" (Kinseido)					
参 考 資 料						
連 絡 先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F					
オ フィ ス ア ワ ー	See schedule on my office door. (Building 1, 2nd floor)					
備 考	Placement test will determine who can take this class.					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
Communication Workshop I		1	柚木 繁之	1年	前期	演習	必修
授業概要	英語(言語)学習における4技能のうち、「聞くこと」と「話すこと」の2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない中で成長した英語学習者にとっては、つまるところ、その文法を正しく習得することなくして、これら2つの技能を効率的に運用することは困難であることも事実です。さらに、我が国は主な英語使用圏から速く離れ、さらに島国でもあり、日常生活において英語を身に付ける機会も限定されていることも、私たちの英語習得に対する壁一部となっています。しかし、英文法の修得を最優先とした英語教育によって、英語による実用的な意思疎通技法の修得が助けられる場合もあることも否定できません。これらのことから、本科目では履修者が自主的に演習に参加することを前提に、既修の英文法を確認しながら基礎的な英語力を定着させ、社会生活において必要な最小限度の意思疎通を行う技能の育成を目指します。						
キーワード	Communicative Strategies in English, Basic English Grammar						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における、英語での意思疎通に必要な基礎的な英語力を定着させること。</li> <li>・基本的な文法項目の習得。・我が国における英語習得の目的について理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について理解を深めること。・その他</li> </ul>						
受講生に望むこと	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的にさらに発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。積極的に授業へ参加するとともに、理解できないところがあれば、同じく積極的に質問して下さい。						
事前・事後学修期間中の学修	授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成等を終点とせず、教科書執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。期間中は、これら事前・事後学修事項に留意しつつ意欲的に学修に取り組むとともに、授業者が適宜指示する事項についても従うこと。						
課題と評価の方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定)						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	コースオリエンテーション 本科目の方針・修得目標等					授業1回あたり1時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するために各自が要する時間。	
2	日・英語 語順の違いは困難点 (英語と日本語の大きな違い 主語と述語)						
3	名詞の特性・代名詞の使用 (名詞・代名詞)						
4	副詞は慣れると便利に使える (形容詞・副詞)						
5	前置詞は使いこなすと便利な詞 (前置詞)						
6	述語動詞の働きを見直そう (時制)						
7	時制と動詞のかたち・5文型は判別しなくてはならないか (時制・5文型)						
8	見た目が同じでも違う言葉 (特別な 'it' と 'there')						
9	多義語は身方につけて活用 (意外と役立つ基本動詞)						
10	語。ひとつずつよりもフレーズで (コロケーション)						
11	働きが異なる動詞 -ing を便利に使う (現在分詞)						
12	形容詞の働きをする動詞を便利に使う (過去分詞)						
13	筆記演習活動1						
14	筆記演習活動2						
15	総括						
関連科目	「Communicative Grammar I・II・III」, 「Communication Workshop II・III」ほか						
資格	英語検定, TOEIC, TOEFLなどの各種英語試験						
教科書	Focus on Basic English for Communication 樋口千春・福富かおる SHOHAKUSHA   (ISBN: 978-4-88198-715-5)						
参考資料	英和・和英辞書(電子辞書使用可)   その他は、授業中に適宜指示する。						
連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP電話: 050-5532-7900 (録音)   研究室: 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室						
オフィスアワー	前期: 火12:15-13:00・火16:20-17:05 後期: 水12:15-13:00・水13:55-14:40 ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム(メニュー[授業関連]-[教員時間割])あるいは学生支援課掲示を確認すること。						
備考	評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communication Workshop II	1	竹下 裕俊	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	文化と社会、生活と環境、ビジネスと出張、観光とニュースといった4つのジャンルのトピックについて、リーディング、ライティング、リスニングの練習問題に取り組みながら、英語の基礎固めを図り、総合的な英語力の強化につなげる。					
キ ー ワ ー ド	コミュニケーション					
到 達 目 標	主体的に英語に親しみながら、英語力の向上を図る中で、自ら考え、判断し、課題を解決する思考力をあわせて養う。					
受 講 生 に 望 む こ と	辞書を引く労を厭わないこと。					
事前・事後学修期間中の学修	復習には十分な時間をかけ、不明な個所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。					
課 題 と 評 価 の 方 法	定期的な確認テストの結果により評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	Unit 10: Advertising				15時間	
2	Unit 11: Business Trip					
3	Unit 10 と Unit 11 の確認テスト及び解説・まとめ					
4	Unit 12: Get It Cleaned					
5	Unit 13: A Storm					
6	Unit 12 と Unit 13 の確認テスト及び解説・まとめ					
7	Unit 14: The Media					
8	Unit 15: Sightseeing					
9	Unit 14 と Unit 15 の確認テスト及び解説・まとめ					
10	プリント配付					
11	プリント配付					
12	配付プリントの確認テスト及び解説・まとめ					
13	プリント配付					
14	プリント配付					
15	配付プリントの確認テスト及び解説・まとめ、全体の振り返り					
関 連 科 目	Communication Workshop I、Communication Workshop III					
資 格	日本語教員（必修）					
教 科 書	English Indicator 1 [Essential] 出版社：南雲堂 ￥2,160（税込）					
参 考 資 料	授業中に適宜指示する。					
連 絡 先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟4階（武蔵ヶ丘キャンパス）					
オ フィ ス ア ワ ー	初回講義時に通知する。					
備 考	Communication Workshop I と同じ教科書を使用。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communication Workshop II	1	ジョシュ・ノーマン	1年	後期	演習	必修
授 業 概 要	この科目の主な目的は、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を練磨し、実戦的な中でも偏りのない英語運用能力の向上を図ることである。授業では、「Communication Workshop I」の内容を踏まえ、発展的なレベルのテキスト及びその他の学習教材を利用する。併せて、受講生同士のディスカッションやプレゼンテーションを始めとする様々な訓練・演習によって、英語で自らを表現する能力や、他者を理解する能力を身に付ける。受講生には、自らの英語力を測る指標として、TOEICの受験を強く推奨する。Students will listen to authentic English using a DVD to see how Japanese and Americans their age maneuver through everyday situations. Students will have several opportunities to put their English into action with the speaking activities that mirror the visual content in each of the units.					
キ ー ワ ー ド	English communication, American culture					
到 達 目 標	After taking this class, students should be able to talk about differences between Japanese and U.S. culture using simple English words and expressions.					
受 講 生 に 望 む こ と	Homework will sometimes be assigned at the end of class. Make sure to get assignments directly from me or a fellow classmate if you are absent from any classes.					
事 前 ・ 事 後 学 修 期 間 中 の 学 修	(1 hour per class) Students should prepare for classes by reading the textbook before coming to class and using a dictionary to check words/phrases they do not understand. Then, after class, students should do any assigned homework or re-read the material discussed in class. All textbooks come with a DVD, so students can use the DVD at home to					
課 題 と 評 価 の 方 法	Quiz (50%), participation/attitude (30%), and homework (20%)					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事 前 ・ 事 後 学 修 の 目 安	
1	Unit 1				1 hour per class	
2	Unit 2					
3	Unit 3					
4	Unit 4					
5	Unit 5					
6	Unit 6					
7	Review of units 1-6					
8	Unit 7					
9	Unit 8					
10	Unit 9					
11	Unit 10					
12	Unit 11					
13	Unit 12					
14	Review of units 7-12					
15						
関 連 科 目	Communication Workshop I, Communication Workshop III					
資 格	日本語教員 (必修)					
教 科 書	"America Live!" (MacMillan Language House)					
参 考 資 料						
連 絡 先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F					
オ フィ ス ア ワ ー	See schedule on my office door. (Building 1, 2nd floor)					
備 考	Placement test will determine who can take this class.					

科 目 名		単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
Communication Workshop II		1	柚木 繁之	1 年	後期	演習	必修
授 業 概 要	英語（言語）学習における4技能のうち、「聞くこと」と「話すこと」の2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としないですぐに成長した英語学習者にとっては、つまるところ、その文法を正しく習得することなくして、これら2つの技能を効率的に運用することは困難であることも事実です。さらに、我が国は主な英語使用圏から遠く離れ、さらに島国でもあり、日常生活において英語を身に付ける機会も限定されていることも、私たちの英語修得に対する壁一部となっています。しかし、英文法の修得を最優先とした英語教育によって、英語による実用的な意思疎通技法の修得が妨げられる場合もあることも否定できません。これらのことから、本科目では履修生が自主的に演習に参加することを前提に、既修の英文法を確認しながら基礎的な英語力を定着させ、社会生活において必要な最小限の意思疎通を行うより発展的な技能の育成を目指します。						
キ ー ワ ー ド	Communicative Strategies in English, Basic English Grammar						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における、英語での意思疎通に必要な基礎的な英語力を定着させること。</li> <li>・基本的な文法項目の習得。</li> <li>・我が国における英語習得の目的について理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について理解を深めること。</li> <li>・その他</li> </ul>						
受 講 生 に 望 む こ と	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的にさらに発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。積極的に授業へ参加するとともに、理解できないところがあれば、同じく積極的に質問して下さい。						
事 前 ・ 事 後 学 修 期 間 中 の 学 修	授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成等を終点とせず、教科書執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。期間中は、これら事前・事後学修事項に留意しつつ意欲的に学修に取り組むとともに、授業者が適宜指示する事項についても従うこと。						
課 題 と 評 価 の 方 法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定)						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。						◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						
回	授 業 計 画					事 前 ・ 事 後 学 修 の 目 安	
1	コース・オリエンテーション： 本科目の方針・修得目標等について					授業1回あたり1時間以上、かつ、予習指示範囲を指定通りに予習するために各自が要する時間。	
2	過去分詞もいろいろと使える（受動態）						
3	yes/no と not（質問文（1）・否定文）						
4	when, who, where and what で主導権を（質問文（2））						
5	助動詞で思いを伝える（助動詞（1））						
6	過去を表さない would & could など（助動詞（2））						
7	名詞の働きをする動詞は便利（動名詞・不定詞（1））						
8	形容詞・副詞の働きをする動詞（不定詞（2））						
9	'Hand in hand' の接続詞・「いつ」でない when（接続詞）						
10	形容詞に原級があるとは限らない（比較級・最上級）						
11	「誰が」でない who と「どれ」でない which（関係代名詞）						
12	過去と現在のつながりを表す（完了時制）						
13	筆記演習活動1						
14	筆記演習活動2						
15	総括						
関 連 科 目	「Communicative Grammar I・II・III」, 「Communication Workshop I・III」ほか						
資 格	英語検定, TOEIC, TOEFLなどの各種英語試験						
教 科 書	Focus on Basic English for Communication 樋口千春・福富かおる SHOHAKUSHA   (ISBN: 978-4-88198-715-5)						
参 考 資 料	英和・和英辞書（電子辞書使用可）   その他は、授業中に適宜指示する。						
連 絡 先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室						
オフィスアワー	前期：火12:15-13:00・火16:20-17:05 後期：水12:15-13:00・水13:55-14:40 ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム（メニュー[授業関連]-[教員時間割]）あるいは学生支援課掲示を確認すること。						
備 考	評価にあたっては、積極的な授業への参加姿勢、予習状況など、基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級中国語 I	1	北口 英穂	1年	前期	演習	選択必修
授業概要	中国語は漢字の多くが共通で日本人にとって馴染みやすい言語です。しかし、発音が難解で文法も独特のため挫折しやすい外国語でもあります。そこで本学部の1年次の中国語の授業は、初級中国語 I が総合的な内容とし、初級中国語 II は発音中心とします。必ずセットで受講するようにしてください。本授業では、最初の数回は初級中国語 II と同様発音の練習をします。一通り練習した後は、文法、語彙等の内容を中心に授業を展開します。2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キーワード	中国語					
到達目標	中国語検定試験準4級レベル					
受講生に望むこと	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課題と評価の方法	平常点（受講態度、小テスト等）20%   中間試験 40%   期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	講義計画、中国語について				事前事後それぞれ1時間目安	
2	発音練習①					
3	発音練習②					
4	【第1課】人称代名詞、動詞述語文					
5	【第1課】「嗎」疑問文					
6	【第2課】疑問詞疑問文					
7	【第2課】「的」、「也」					
8	【第3課】所在の「在」、指示詞					
9	【第3課】数詞、量詞、語気助詞					
10	中間まとめ					
11	【第4課】「的」の省略、「有」					
12	【第4課】「没有」、「接続詞」					
13	【第5課】「不」、「喜歡」					
14	【第5課】「吧」、「都」					
15	まとめ 試験					
関連科目	初級中国語 II とセットで受講すること					
資格	中国語検定試験準四級、日本語教員（選択必修）					
教科書	楊凱榮『LOVE 上海初級中国語』（朝日出版社）					
参考資料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連絡先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級中国語 I	1	福永 美佳	1年	前期	演習	選択必修
授業概要	中国語は漢字の多くが共通で日本人にとって馴染みやすい言語です。しかし、発音が難解で文法も独特のため挫折しやすい外国語でもあります。そこで本学部の1年次の中国語の授業は、初級中国語 I が総合的な内容とし、初級中国語 II は発音中心とします。必ずセットで受講するようにしてください。  本授業では、最初の数回は初級中国語 II と同様発音の練習をします。一通り練習した後は、文法、語彙等の内容を中心に授業を展開します。2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キーワード	中国語					
到達目標	中国語検定試験準4級レベル					
受講生に望むこと	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課題と評価の方法	平常点 (受講態度、小テスト等) 20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	講義計画、中国語について				事前事後それぞれ1時間目安	
2	発音練習①					
3	発音練習②					
4	【第1課】人称代名詞、動詞述語文					
5	【第1課】「嗎」疑問文					
6	【第2課】疑問詞疑問文					
7	【第2課】「的」、「也」					
8	【第3課】所在の「在」、指示詞					
9	【第3課】数詞、量詞、語気助詞					
10	中間まとめ					
11	【第4課】「的」の省略、「有」					
12	【第4課】「没有」、「接続詞」					
13	【第5課】「不」、「喜歡」					
14	【第5課】「吧」、「都」					
15	まとめ 試験					
関連科目	初級中国語 II とセットで受講すること					
資格	中国語検定試験準四級、日本語教員 (選択必修)					
教科書	楊凱榮『LOVE 上海初級中国語』(朝日出版社)					
参考資料	推奨辞書: 『中日辞典』(小学館)、『講談社中日辞典』(講談社)					
連絡先	Email: fuyong@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級中国語Ⅱ	1	北口 英穂	1年	前期	演習	選択必修
授 業 概 要	中国語は発音が非常に重要で「発音よければ半ばよし」と言われるほどです。発音のちょっとした違いで意味が全く異なることもあります。日本人は漢字を理解できるため、中国語に入り込みやすい反面、発音が難解であるため、発音で挫折する場合があります。そこで、この講義では最初で最大のハードル「発音」をクリアすることを重点に置いて実施します。本授業では、2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キ ー ワ ー ド	中国語					
到 達 目 標	中国語検定試験準4級レベル					
受 講 生 に 望 む こ と	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修期間中の学修	事前にテキストに目を通す   事後は本文の音読を繰り返す					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点 (受講態度、小テスト等) 20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	講義計画、中国語について				事前事後それぞれ1時間目安	
2	声調、ピンインについて					
3	単母音①					
4	単母音②					
5	複合母音①					
6	複合母音②					
7	鼻母音①					
8	鼻母音②					
9	中間まとめ					
10	子音①					
11	子音②					
12	子音③					
13	子音④					
14	母音+子音					
15	まとめ 試験					
関 連 科 目	初級中国語Ⅰとセットで受講すること					
資 格	中国語検定試験準四級、日本語教員 (選択必修)					
教 科 書	盧尤『中国語発音完全教本』(アスク出版)					
参 考 資 料	推奨辞書：『中日辞典』(小学館)、『講談社中日辞典』(講談社)					
連 絡 先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟 3F、第9研究室					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備 考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級中国語Ⅱ	1	本田 暁美	1年	前期	演習	選択必修
授 業 概 要	中国語は発音が非常に重要で「発音よければ半ばよし」と言われるほどです。発音のちょっとした違いで意味が全く異なることもあります。日本人は漢字を理解できるため、中国語に入り込みやすい反面、発音が難解であるため、発音で挫折する場合があります。そこで、この講義では最初で最大のハードル「発音」をクリアすることを重点に置いて実施します。本授業では、2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キ ー ワ ー ド	中国語					
到 達 目 標	中国語検定試験準4級レベル					
受 講 生 に 望 む こ と	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修 期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点（受講態度、小テスト等）20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	講義計画、中国語について				事前事後それぞれ1時間目安	
2	声調、ピンインについて					
3	単母音①					
4	単母音②					
5	複合母音①					
6	複合母音②					
7	鼻母音①					
8	鼻母音②					
9	中間まとめ					
10	子音①					
11	子音②					
12	子音③					
13	子音④					
14	母音+子音					
15	まとめ 試験					
関 連 科 目	初級中国語Ⅰとセットで受講すること					
資 格	中国語検定試験準四級、日本語教員（選択必修）					
教 科 書	盧尤『中国語発音完全教本』（アスク出版）					
参 考 資 料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連 絡 先	授業中にアナウンスする予定					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備 考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級中国語Ⅲ	1	北口 英穂	1年	後期	演習	選択必修
授 業 概 要	前期「初級中国語Ⅰ」の続きです。 本授業では、文法、語彙等の内容を中心に授業を展開します。中国語の基本的な文法事項を一通り把握することを目指します 2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キ ー ワ ー ド	中国語					
到 達 目 標	中国語検定試験4級レベル					
受 講 生 に 望 む こ と	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修 期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点（受講態度、小テスト等）20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	復習				事前事後それぞれ1時間目 安	
2	【第6課】助動詞「想」、連動文					
3	【第6課】動詞の重ね型、形容詞述語文					
4	【第7課】数詞、時刻、曜日					
5	【第7課】名刺述語文、正反疑問文					
6	【第8課】時点、完了の「了」					
7	【第8課】前置詞「在」、経験の「過」					
8	中間まとめ					
9	【第9課】連動文②、選択疑問文					
10	【第9課】副詞「還」、形容詞の連体修飾					
11	【第10課】主題文、助動詞「会」					
12	【第10課】動詞の連体修飾					
13	【第11課】副詞「有点」、変化の「了」					
14	【第11課】「離」、「挺～的」					
15	まとめ 試験					
関 連 科 目	初級中国語Ⅳとセットで受講すること					
資 格	中国語検定試験4級					
教 科 書	楊凱榮『LOVE 上海初級中国語』（朝日出版社）					
参 考 資 料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連 絡 先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備 考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級中国語Ⅲ	1	福永 美佳	1年	後期	演習	選択必修
授 業 概 要	前期「初級中国語Ⅰ」の続きです。 本授業では、文法、語彙等の内容を中心に授業を展開します。中国語の基本的な文法事項を一通り把握することを目指します 2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キ ー ワ ー ド	中国語					
到 達 目 標	中国語検定試験4級レベル					
受 講 生 に 望 む こ と	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修 期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点（受講態度、小テスト等）20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	復習				事前事後それぞれ1時間目 目 安	
2	【第6課】助動詞「想」、連動文					
3	【第6課】動詞の重ね型、形容詞述語文					
4	【第7課】数詞、時刻、曜日					
5	【第7課】名刺述語文、正反疑問文					
6	【第8課】時点、完了の「了」					
7	【第8課】前置詞「在」、経験の「過」					
8	中間まとめ					
9	【第9課】連動文②、選択疑問文					
10	【第9課】副詞「還」、形容詞の連体修飾					
11	【第10課】主題文、助動詞「会」					
12	【第10課】動詞の連体修飾					
13	【第11課】副詞「有点」、変化の「了」					
14	【第11課】「離」、「挺～的」					
15	まとめ 試験					
関 連 科 目	初級中国語Ⅳとセットで受講すること					
資 格	中国語検定試験4級					
教 科 書	楊凱榮『LOVE 上海初級中国語』（朝日出版社）					
参 考 資 料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連 絡 先	Email：fuyong@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備 考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級中国語Ⅳ	1	北口 英穂	1年	後期	演習	選択必修
授 業 概 要	前期「初級中国語Ⅱ」の続きです。前期と同様発音中心に行い、音読、会話練習を多めに行います。本授業では、2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キ ー ワ ー ド	中国語					
到 達 目 標	中国語検定試験4級レベル					
受 講 生 に 望 む こ と	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修 期間中の学修	事前にテキストに目を通す 事後は本文の音読を繰り返す					
課 題 と 評 価 の 方 法	平常点（受講態度、小テスト等）20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	発音復習①					事前事後それぞれ1時間目安
2	発音復習②					
3	声調練習、声調変化					
4	2音節の発音練習①					
5	2音節の発音練習②					
6	2音節の発音練習③					
7	中間まとめ					
8	3音節以上の発音練習①					
9	3音節以上の発音練習②					
10	3音節以上の発音練習③					
11	3音節以上の発音練習④					
12	多音節の応用①					
13	多音節の応用②					
14	多音節の応用③					
15	まとめ 試験					
関 連 科 目	初級中国語Ⅲとセットで受講すること					
資 格	中国語検定試験4級					
教 科 書	盧尤『中国語発音完全教本』（アスク出版）					
参 考 資 料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連 絡 先	Email：wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備 考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級中国語Ⅳ	1	本田 暁美	1年	後期	演習	選択必修
授業概要	前期「初級中国語Ⅱ」の続きです。前期と同様発音中心に行い、音読、会話練習を多めに行います。本授業では、2クラス開講しますので、少人数で出来る限り多く中国語に触れるようにします。					
キーワード	中国語					
到達目標	中国語検定試験4級レベル					
受講生に望むこと	毎日中国語に触れること					
事前・事後学修期間中の学修	事前にテキストに目を通す   事後は本文の音読を繰り返す					
課題と評価の方法	平常点（受講態度、小テスト等）20% 中間試験 40% 期末試験 40%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	発音復習①				事前事後それぞれ1時間目安	
2	発音復習②					
3	声調練習、声調変化					
4	2音節の発音練習①					
5	2音節の発音練習②					
6	2音節の発音練習③					
7	中間まとめ					
8	3音節以上の発音練習①					
9	3音節以上の発音練習②					
10	3音節以上の発音練習③					
11	3音節以上の発音練習④					
12	多音節の応用①					
13	多音節の応用②					
14	多音節の応用③					
15	まとめ 試験					
関連科目	初級中国語Ⅲとセットで受講すること					
資格	中国語検定試験4級					
教科書	盧尤『中国語発音完全教本』（アスク出版）					
参考資料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）					
連絡先	授業中にアナウンスする予定					
オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定					
備考	2クラスに分かれての実施となります。1回目は合同で行います。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅰ	1	中川 明夫	1年	前期	演習	選必
授業概要	韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多いうえ、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語です。ここでは「ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール」など、韓国語の基本的な知識を学ぶことで、韓国語の文章を理解し、基本的なコミュニケーションを可能にする語学力と言語文化力を習得します。「初級韓国語Ⅱ」とほぼ同様の内容ですが、「読み・書き」によりウェイトをおいた授業になります。授業では韓国語のリズム・語彙に早く慣れ、韓国語によるコミュニケーションを楽しむため韓国語を使用する場合がありますが、緊張しないで慣れることを大きな目標としましょう。					
キーワード	ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール、基本的なコミュニケーション、慣れる					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。</li> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> <li>・韓国語に慣れる</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・ハングル文字の学習が一番のポイントになります。読めるようにしてください。・韓国語に慣れるようにしてください。</p> <p>[事後] 復習をしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介、ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1				事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。	
2	ハングル文字を覚えようー子音音、あいさつ言葉2					
3	ハングル文字を覚えようーパッチム（終音）、あいさつ言葉3					
4	レッスン1 人を表す言葉、「～は」					
5	レッスン2 「～です・～ですか」、自己紹介					
6	レッスン2 「～ではありません」					
7	レッスン3 「こそあど、何ですか」					
8	レッスン3 「～が」、「～と」					
9	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる / ない」					
10	レッスン4 場所・方向・位置の表現					
11	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください」					
12	レッスン5 年・月・日を表す表現					
13	レッスン6 「～ます・です」①					
14	レッスン6 「～ます・です」②					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅱ、日本語教育関連の授業					
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員（選択必修）					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	中川明夫・イヘウン（2007年）『しっかり学べる韓国語』（ナツメ社）、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考	「初級韓国語Ⅱ」の受講者が韓国語の基礎的な知識・資格を持っている人が望ましいですが、韓国語・外国語に関心を持っている人なら誰でもオーケーです。授業はなるべく日本語で行いますが、韓国語の発音・リズムに早く慣れるように、韓国語で質問などをします。緊張せずに、楽しんでください。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅰ	1	柳景沃	1年	前期	演習	選必
授業概要	韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多いうえ、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語です。ここでは「ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール」など、韓国語の基本的な知識を学ぶことで、韓国語の文章を理解し、基本的なコミュニケーションを可能にする語学力と言語文化力を習得します。「初級韓国語Ⅱ」とほぼ同様の内容ですが、「読み・書き」によりウェイトをおいた授業になります。授業では韓国語のリズム・語彙に早く慣れ、韓国語によるコミュニケーションを楽しむため韓国語を使用する機会が多々ありますが、緊張しないで慣れることを大きな目標としましょう。					
キーワード	ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール、基本的なコミュニケーション、慣れる					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。</li> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> <li>・韓国語に慣れる</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・ハングル文字の学習が一番のポイントになります。読めるようにしてください。・韓国語に慣れるようにしてください。</p> <p>[事後] 復習をしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介、ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1				事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。	
2	ハングル文字を覚えようー子音音、あいさつ言葉2					
3	ハングル文字を覚えようーパッチム（終音）、あいさつ言葉3					
4	レッスン1 人を表す言葉、「～は」					
5	レッスン2 「～です・～ですか」、自己紹介					
6	レッスン2 「～ではありません」					
7	レッスン3 「こそあど、何ですか」					
8	レッスン3 「～が」、「～と」					
9	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる / ない」					
10	レッスン4 場所・方向・位置の表現					
11	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください」					
12	レッスン5 年・月・日を表す表現					
13	レッスン6 「～ます・です」①					
14	レッスン6 「～ます・です」②					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅱ、日本語教育関連の授業					
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員（選択必修）					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	中川明夫・イヘウン（2007年）『しっかり学べる韓国語』（ナツメ社）、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	授業の前後に受け付けます					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅱ	1	中川 明夫	1年	前期	演習	選必
授業概要	韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多いうえ、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語です。ここでは「ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール」など、韓国語の基本的な知識を学ぶことで、韓国語の文章を理解し、基本的なコミュニケーションを可能にする語学力と言語文化力を習得します。「初級韓国語Ⅰ」とほぼ同様の内容ですが、「会話・聞き取り」によりウェイトをおいた授業になります。韓国語のリズム・語彙に早く慣れ、韓国語によるコミュニケーションを楽しむため韓国語を使用する機会が多々ありますが、緊張しないで慣れることを大きな目標としましょう。					
キーワード	基本的な文章ルール、2タイプの文を結ぶ表現、習得の大きな「峠」を超える					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介				事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。	
2	ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1					
3	ハングル文字を覚えようー子音音、あいさつ言葉2					
4	ハングル文字を覚えようーパッチム（終音）、あいさつ言葉3					
5	レッスン1 人を表す言葉、「～は」					
6	レッスン2 「～です・～ですか」、自己紹介					
7	レッスン2 「～ではありません」					
8	レッスン3 「こそあど」、何ですか」					
9	レッスン3 「～が」、「～と・～の」					
10	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる・ない」					
11	レッスン4 場所・方向・位置の表現					
12	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください」					
13	レッスン5 年・月・日を表す表現					
14	レッスン6 「～ます・です」					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅰ、日本語教育関連の科目					
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員（選択必修）					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	補足プリント、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考	「初級韓国語Ⅰ」の受講者が韓国語の基礎的な知識・資格を持っている人が望ましいですが、韓国語・外国語に関心を持っている人なら誰でもオーケーです。授業はなるべく日本語で行いますが、韓国語の発音・リズムに早く慣れるように、韓国語で質問などをします。緊張せずに、楽しんでください。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅱ	1	柳景沃	1年	前期	演習	選必
授業概要	韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多いうえ、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語です。ここでは「ハングル文字、あいさつ・自己紹介、基本単語・文章ルール」など、韓国語の基本的な知識を学ぶことで、韓国語の文章を理解し、基本的なコミュニケーションを可能にする語学力と言語文化力を習得します。「初級韓国語Ⅰ」とほぼ同様の内容ですが、「会話・聞き取り」によりウェットをおいた授業になります。韓国語のリズム・語彙に早く慣れ、韓国語によるコミュニケーションを楽しむため韓国語を使用する機会が多々ありますが、緊張しないで慣れることを大きな目標としましょう。					
キーワード	基本的な文章ルール、2タイプの文を結ぶ表現、習得の大きな「峠」を超える					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。</li> <li>（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介				事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。	
2	ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1					
3	ハングル文字を覚えようー子音音、あいさつ言葉2					
4	ハングル文字を覚えようーパッチム（終音）、あいさつ言葉3					
5	レッスン1 人を表す言葉、「～は」					
6	レッスン2 「～です・～ですか」、自己紹介					
7	レッスン2 「～ではありません」					
8	レッスン3 「こそあど」、何ですか」					
9	レッスン3 「～が」、「～と・～の」					
10	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる・ない」					
11	レッスン4 場所・方向・位置の表現					
12	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください」					
13	レッスン5 年・月・日を表す表現					
14	レッスン6 「～ます・です」					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅰ、日本語教育関連の科目					
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員（選択必修）					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	補足プリント、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	授業の前後に受け付けます					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅲ	1	中川 明夫	1年	後期	演習	選必
授業概要	前期に引き続き、韓国語の文章が理解でき、より高度の韓国語によるコミュニケーションができる知識を習得します。特に、2つのタイプの「文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）」を習得し、実際のコミュニケーションで使えるようにすることで、韓国語習得の大きな「峠」を越えます。「初級韓国語Ⅳ」とほぼ同様の内容を学習しますが、より「読み・書き」にウェイトをおいた内容になります。授業では、前期より韓国語を頻繁に使用します。					
キーワード	文を結ぶ表現、習得の大きな「峠」を超える					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	オリエンテーション、復習					事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。
2	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(1)					
3	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(2)					
4	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(3)					
5	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(1)					
6	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(2)					
7	レッスン9 過去の表現 「～ています」					
8	レッスン9 好き嫌いの表現 「～好きです/たいです」					
9	レッスン10 過去の表現 「～ました・でした」					
10	レッスン10 確認の表現 「～でしょうか？」など					
11	レッスン11 義務・理由の表現 「～なければなりません/ので」					
12	レッスン11 お願い・許可の表現 「～てください/てもいいです」					
13	レッスン12 応用表現 (1)					
14	レッスン12 応用表現 (2)					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅰ・Ⅱ、初級韓国語Ⅳ、日本語教育					
資格	各種の韓国語検定試験					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	中川明夫・イヘウン(2007年)『しっかり学べる韓国語』(ナツメ社)、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考	「初級韓国語ⅠまたはⅡ」の既受講者、「初級韓国語Ⅳ」の受講者、韓国語の基礎的な知識・資格を持っている人が望ましいですが、韓国語・外国語に関心を持っている人なら誰でもオーケーです。授業はなるべく日本語で行いますが、韓国語の発音・リズムに早く慣れるように、韓国語で質問などをします。緊張せずに、楽しんでください。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅲ	1	柳 景沃	1年	後期	演習	選必
授業概要	前期に引き続き、韓国語の文章が理解でき、より高度の韓国語によるコミュニケーションができる知識を習得します。特に、2つのタイプの「文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）」を習得し、実際のコミュニケーションで使えるようにすることで、韓国語習得の大きな「峠」を越えます。「初級韓国語Ⅳ」とほぼ同様の内容を学習しますが、より「読み・書き」にウェイトをおいた内容になります。授業では、前期より韓国語を頻繁に使用します。					
キーワード	文を結ぶ表現、習得の大きな「峠」を超える					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	オリエンテーション、復習					事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。
2	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(1)					
3	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(2)					
4	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(3)					
5	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(1)					
6	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(2)					
7	レッスン9 過去の表現 「～ています」					
8	レッスン9 好き嫌いの表現 「～好きです/たいです」					
9	レッスン10 過去の表現 「～ました・でした」					
10	レッスン10 確認の表現 「～でしょうか？」など					
11	レッスン11 義務・理由の表現 「～なければなりません/ので」					
12	レッスン11 お願い・許可の表現 「～てください/てもいいです」					
13	レッスン12 応用表現 (1)					
14	レッスン12 応用表現 (2)					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅰ・Ⅱ、初級韓国語Ⅳ、日本語教育					
資格	各種の韓国語検定試験					
教科書	中川明夫・柳景沃、『ベーシック韓国語～初級～』、自作教材					
参考資料	中川明夫・イヘウン(2007年)『しっかり学べる韓国語』(ナツメ社)、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	授業の前後に受け付けます。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
初級韓国語Ⅳ	1	中川 明夫	1年	後期	演習	選必
授業概要	前期に引き続き、韓国語の文章が理解でき、より高度の韓国語によるコミュニケーションができる知識を習得します。特に、2つのタイプの「文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）」を習得し、実際のコミュニケーションで使えるようにすることで、韓国語習得の大きな「峠」を越えます。「初級韓国語Ⅲ」とほぼ同様の内容を学習しますが、より「話す・聞く」にウェイトをおいた内容になります。授業では、前期より韓国語を頻繁に使用します。					
キーワード	文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）、大きな「峠」を超える					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。 ・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課題と評価の方法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	オリエンテーション、復習					事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。
2	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(1)					
3	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(2)					
4	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(3)					
5	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(1)					
6	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(2)					
7	レッスン9 過去の表現 「～ています」					
8	レッスン9 好き嫌いの表現 「～好きです/たいです」					
9	レッスン10 過去の表現 「～ました・でした」					
10	レッスン10 確認の表現 「～でしょうか？」など					
11	レッスン11 義務・理由の表現 「～なければなりません/ので」					
12	レッスン11 お願い・許可の表現 「～てください/てもいいです」					
13	レッスン12 応用表現 (1)					
14	レッスン12 応用表現 (2)					
15	まとめ及び確認テスト					
関連科目	初級韓国語Ⅰ・Ⅱ、初級韓国語Ⅲ、日本語教育					
資格	各種の韓国語検定試験					
教科書	『ベーシック韓国語』（中川明夫・柳景沃、自作教材）					
参考資料	補足プリント、映像資料など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考	「初級韓国語ⅠまたはⅡ」の既受講者、「初級韓国語Ⅲ」の受講者、韓国語の基礎的な知識・資格を持っている人が望ましいですが、韓国語・外国語に関心を持っている人なら誰でもオーケーです。授業はなるべく日本語で行いますが、韓国語の発音・リズムに早く慣れるように、韓国語で質問などをします。緊張せずに、楽しんでください。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
初級韓国語Ⅳ	1	柳 景沃	1 年	後期	演習	選必
授 業 概 要	前期に引き続き、韓国語の文章が理解でき、より高度の韓国語によるコミュニケーションができる知識を習得します。特に、2つのタイプの「文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）」を習得し、実際のコミュニケーションで使えるようにすることで、韓国語習得の大きな「峠」を越えます。「初級韓国語Ⅲ」とほぼ同様の内容を学習しますが、より「話す・聞く」にウェイトをおいた内容になります。授業では、前期より韓国語を頻繁に使用します。					
キ ー ワ ー ド	文を結ぶ表現（ニュースタイプ+ドラマタイプ）、大きな「峠」を超える					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。（特に、文を結ぶ表現～ニュースタイプ+ドラマタイプ～）</li> <li>・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。</p> <p>[事後]・単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。</p> <p>[期間中の学修] 授業の内容を基にして試験を実施しますので、毎回の講義内容を記録しておいてください。</p>					
課 題 と 評 価 の 方 法	確認テストの成績で評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	オリエンテーション、復習					事前学修は1時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。
2	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(1)					
3	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(2)					
4	レッスン7 文を結ぶ表す言葉 「～ます・です」(3)					
5	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(1)					
6	レッスン8 文を結ぶ表す言葉 「不規則な活用」(2)					
7	レッスン9 過去の表現 「～ています」					
8	レッスン9 好き嫌いの表現 「～好きです/たいです」					
9	レッスン10 過去の表現 「～ました・でした」					
10	レッスン10 確認の表現 「～でしょうか？」など					
11	レッスン11 義務・理由の表現 「～なければなりません/ので」					
12	レッスン11 お願い・許可の表現 「～てください/てもいいです」					
13	レッスン12 応用表現 (1)					
14	レッスン12 応用表現 (2)					
15	まとめ及び確認テスト					
関 連 科 目	初級韓国語Ⅰ・Ⅱ、初級韓国語Ⅲ、日本語教育					
資 格	各種の韓国語検定試験					
教 科 書	『ベーシック韓国語』（中川明夫・柳景沃、自作教材）					
参 考 資 料	補足プリント、映像資料など					
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
海外語学研修（中国語）	1	北口 英穂	1年	後期	演習	選択
授 業 概 要	春期休暇中の短期語学留学（台湾・慈済大学）に参加した学生で、所定の成績を取めた場合に「海外語学研修（中国語）」の単位として認められます。					
キ ー ワ ー ド	中国語、留学					
到 達 目 標	中国語の瞬発力を身につける					
受 講 生 に 望 む こ と	積極的に交流すること					
事前・事後学修期間中の学修	中国語関係の授業に積極的に取り組み、課外で実施予定の特訓にも参加すること。					
課 題 と 評 価 の 方 法	慈済大学中国語センターでの中国語試験の結果とレポートの内容を踏まえて評価します。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	2019年2月末頃から4週間の予定				事前事後それぞれ2時間	
2	午前：中国語授業（クラス分けあり）					
3	午後：各種体験活動、交流活動					
4						
5	参加費：25,000台湾ドル（授業料、寮費、教材費、各種活動費込）					
6	※為替相場で変動あり。2018年2月時点で約92,000円					
7	※その他、渡航費（50,000円程度）、海外旅行保険（10,000円程度）、食費（10,000円程度）が必要					
8						
9	※学期初めのオリエンテーション時に詳細について説明します。					
10						
11						
12						
13						
14						
15						
関 連 科 目	各種中国語科目					
資 格	中国語検定試験4級程度 HSK3級程度					
教 科 書						
参 考 資 料						
連 絡 先	北口英穂 管理棟3F第9研究室 wada@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義日にアナウンスします。					
備 考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外語学研修 (韓国語)	1	中川 明夫	1年	後期	演習	選択
授業概要	生きた韓国語の表現を理解すると同時に、日韓文化の特徴を理解します。授業はほぼ、韓国語のみで行います。					
キーワード	生きた韓国語の表現、日韓文化の特徴					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国で使える語学力 (発音、語彙、表現ルール) を習得する。</li> <li>韓国社会でコミュニケーションできる文化力を習得する。</li> <li>初級レベル以上の韓国語関連検定試験に合格が可能な知識を習得する。</li> </ul>					
受講生に望むこと	日頃から韓国語・韓国文化に関心を持ち、関連した資料 (教材、CD、DVD、雑誌・新聞など) に触れるようにしましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	[事前]・授業はすべて韓国語で行われるので、あらかじめ教材を読み・発音しながら予習してください。・質問事項を韓国語でできるように、準備しておくことを勧めます。[事後]・必ず復習をするようにしてください。・課題は、期限まで提出してください。・質問事項は、整理して提出するか、次回の授業の時に聞くようにしてください。[期間中の学修] 課題が提出されますので、学修内容、生活を記録しておいてください。					
課題と評価の方法	試験 (80%)、課題 (プレゼンテーション、報告書を含む) (20%) を加算して評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	学外学修：オリエンテーション：授業方法、教材紹介、自己紹介				事前学修は2時間程度、事後学修は30分～1時間程度を目安とする。	
2	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
3	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
4	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
5	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
6	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
7	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
8	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
9	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
10	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
11	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
12	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
13	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
14	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
15	学外学修：教材に沿って授業を行う (すべて韓国語)					
関連科目	初級韓国語をはじめとする韓国語関連科目、日本語教育関連科目					
資格	韓国語関連の検定試験、日本語教師検定試験など					
教科書	プリント (韓国で作成された教材の一部) を配布。					
参考資料	映像資料、補足プリント資料					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考	韓国の仁徳大学校での学外学修になります。韓国語習得に意欲を持つ人ならだれでも受講できます。経費として教育費・宿泊費、交通費、食費などがかかります。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
日本語学概論	2	山川 仁子	1年	後期	講義	選択
授 業 概 要	日本語を客観的に見つめ、日本語が持つ言語学的な特徴を理解することを目的とする。具体的には、次の三つの能力を身につけることを達成目標とする。①日本語を音声・音韻、文字、語彙、文法、文章、言語生活の面から概観し、日本語の特徴を理解する。②日本語と諸言語を比較し、言語の普遍性と個別性について理解するとともに、言語理論の基礎を学ぶ。③本授業を通して、日本語についての潜在的知識を顕在化し、日本語を意識的に捉えられるようにする。					
キ ー ワ ー ド	外から見た日本語、音声・音韻、文法、語彙・意味、文字・表記、方言、待遇表現、言語理論					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語に関する基本的知識を習得する。</li> <li>日本語を観察し、分析する力を身につける。</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	積極的な態度で授業に臨んでほしい。					
事前・事後学修期間中の学修	<p>事前学修：授業のテーマに合わせて各自参考書等を読み、概要をつかんでおくこと。授業内に指示された課題を行うこと。</p> <p>事後学修：授業内に指示された課題を行うこと。わからなかった点は必ず配布資料、参考資料等で復習しておくこと。</p> <p>期間中の学修：普段から身の回りの日本語を観察すること。</p>					
課 題 と 評 価 の 方 法	課題：必要に応じてミニレポート等の課題を課す。  評価：上記課題（30%）、5回の小テスト（70%）					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	イントロダクション					事前学修＝2時間 事後学修＝2時間
2	世界の中の日本語					
3	日本語の音声・音韻（1）					
4	日本語の音声・音韻（2）					
5	日本語の文字・表記（1）					
6	日本語の文字・表記（2）					
7	日本語の文字・表記（3）					
8	日本語の語彙（1）					
9	日本語の語彙（2）					
10	日本語の文法（1）					
11	日本語の文法（2）					
12	日本語の文法（3）					
13	日本語の方言					
14	日本語の待遇表現					
15	まとめ					
関 連 科 目	日本語史、方言学、音声言語、日本語教育文法					
資 格	日本語教員（必修）、日本語教育能力検定試験					
教 科 書	プリントを配布する					
参 考 資 料	『新しい日本語学入門』、庵功雄、スリーエーネットワーク、『はじめての人の日本語文法』、野田尚史、くろしお出版、『基礎日本語文法 改訂版』、益岡・田窪、くろしお出版 など。その他、授業内に適宜紹介する。					
連 絡 先	jin@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする					
備 考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
体育Ⅰ		1	柿原 一貴	1年	前期	実技	選択
授業概要	スポーツは楽しみを求めて自ら進んで行うという視点に立ち、レクリエーション・スポーツを教材として、スポーツの楽しさを理解させる。前期は各種ニュースポーツを行うことによって身体を動かし解放することによってコミュニケーションが広がる事より、たくさんの友人を作るきっかけとしたい。						
キーワード	・運動 ・ニュースポーツ						
到達目標	様々な種類のゲームを楽しみながら、身体を動かすことの楽しさを理解する。						
受講生に望むこと	日頃身体を動かす機会が少ないと思います。私と一緒に身体を動かすことによって心身を解放する快さを体感して下さい。運動習慣が身につくよう、授業で行うストレッチや散歩など日々の生活に取り入れていきましょう。						
事前・事後学修期間中の学修	事前に授業で行う種目について、インターネットや書籍にて触れておくこと。						
課題と評価の方法	授業態度、理解・習熟度、服装（必ず体操服・シューズを着用）						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	①オリエンテーション。ストレッチ説明						
2	※②～⑮回の内容については以下の種目型から選択し実施する。						
3	※天候等により内容を変更する場合有り。						
4	②ターゲットボール型 (ベタンク)						
5	③ターゲットボール型 (グランドゴルフ)						
6	④ターゲットボール型Ⅱ (ゲートボール)						
7	⑤ゴルフ型 (ターゲット・バード・ゴルフ)						
8	⑥複合型 (フライングディスクゴルフ)						
9	⑦ターゲット型 (ディスクボウル)						
10	⑧チームボールゲーム型 (アルティメット)						
11	⑨ウォールゲーム型 (ラケットボール)						
12	⑩バレーボール型 (インディアカ)						
13	⑪テニス型 (ビッグコート・ピンポン)						
14	⑫バレーボール型 (ビッグボールバレー)						
15	⑬スティックとボール型 (ユニホッケー)						
	⑭テニス型 (四角卓球)						
	⑮格闘型 (カバディ)						
関連科目	体育Ⅱ（1年後期）						
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先	kakahara@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：体育館研究室						
オフィスアワー	随時。						
備考							

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
体育Ⅱ	1	柿原 一貴	1年	後期	実技	選択
授 業 概 要	前期は様々なニュースポーツを体験し、自らが楽しく活動し精神を開放する経験から「心身の解放（「変化」）を実感し身体運動を行う楽しさを体験し、本時の活動を通じ本授業を履修したメンバーとのコミュニケーションも深まったと思います。後期は、前半に卓球（個人競技）、後半はビーチバレーボール（集団競技）を教材とし活動します。卓球は各種技術を身につけてゲームが出来る様になりましょう。ビーチバレーボールは行事で多く取り入れられている種目です。今後の学生生活の中での行事や、社会人となってからのレクリエーションで楽しく参加出来る様になりましょう。					
キ ー ワ ー ド	・運動・スポーツ・卓球・ビーチバレーボール					
到 達 目 標	スポーツの楽しさを理解し、生涯を通じて生活の中にスポーツを取り入れて楽しみ文化として人生を豊かにする営みに繋げるきっかけを作る。卓球では、基本的な技術を駆使してゲーム（シングルス・ダブルス）が出来る様になる。ビーチバレーボールでは自分の役割を果たすことによりゲーム場面で主人公となりプレー出来るようになる。					
受 講 生 に 望 む こ と	スポーツは元々遊びが進化していったものです。遊び=楽しさを求めて行う活動です。出来ないとか気にせず心身を解放しましょう。運動習慣が身につくよう、授業で行うストレッチや散歩等を日々の生活に取り入れていきましょう。					
事前・事後学修期間中の学修	インターネットや書籍にて、各時間の内容について確認しておきましょう。					
課 題 と 評 価 の 方 法	授業態度、習熟度、理解度、服装。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	①オリエンテーション。ラケットとシャトルに慣れよう。					
2	②サーブ、ドライブ、ドロップ。					
3	③ 前回までの復習、ハイクリア、ヘアピン。					
4	④ " 前後フットワーク、クリア～ドロップ～ヘアピンの組み合わせショット。					
5	⑤ 前回までの復習、スマッシュ、シングルスミニゲーム。					
6	⑥ " シングルスゲーム。5点先取（アップダウンゲーム）					
7	⑦ " ダブルスゲーム。7点先取（アップダウンゲーム）。					
8	⑧ " " 。					
9	⑨ ビーチバレーボール。2対2で必ず3回で返球。（アップダウンゲーム3点先取）					
10	⑩ " 3回までに返球）（ " ）					
11	⑪ " 3対3で必ず3回で返球（ " ）					
12	⑫ " 3回までに返球（ " ）					
13	⑬ " 5対5で " （レシーブポジションとブロックポジション）					
14	⑭ " （ 2 1点先取 ）					
15	⑮ "					
関 連 科 目	体育Ⅰ（1年前期）					
資 格						
教 科 書						
参 考 資 料						
連 絡 先	kakahara@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：体育館1階 研究室					
オフィスアワー	随時。					
備 考	体操服を着用し、運動に適したシューズを使用すること。 髪の長い者はまとめること。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリア形成入門	2	広瀬 美貴子	1年	後期	講義	必修
授業概要	<p>・これまでの人生を振り返ることで自身の思考、感情、行動の傾向についての自己理解を深める。・多様化する女性のキャリアという側面と、社会的役割としての側面から自分のキャリアを考える。・「働くこと」の意義を個人的な側面と社会的な側面から多面的に捉え、自らの言葉で表現する。・自身のキャリアについて考え、中長期的な視点でのキャリアプランを立てる。・仕事理解を促し、社会人基礎力についての理解と実践を促す。・グループワークを通して、自分自身とは違った捉え方、考え方を参考にし、視野を広げる。</p>					
キーワード	自己理解と仕事理解 社会人基礎力 チームワーク キャリアデザイン					
到達目標	<p>1. 「働くこと」について、多面的に捉え、職業観を自身の言葉で表現できる。2. 自己理解に取り組み、自身の内的キャリアに気づくことができる。3. 主なキャリア理論について学び、職業とキャリアについての理解を深めることができる。4. 社会人基礎力について理解し、自身の今後のキャリアプランに活かすことができる。5. リーダーシップとチームビルディングを理解し実践できる。</p>					
受講生に望むこと	<p>・次の授業の内容については準備しておくこと。・テキストには大切なことが書かれているのでしっかりと読んでおくこと。・自分自身についてしっかり考えることができる時間となるよう取り組むこと。・個人ワークやグループワーク等、主体的な参加態度で臨むこと。・課題・レポートについて、積極的に取り組み提出すること。</p>					
事前・事後学修期間中の学修	<p>「事前学習」・テキストの対応する箇所を読んでおく。・ワークについては、事前に記入できる場所は記入しておく。 「事後学習」・授業の後、グループワークでの振り返りの内容を自分なりに整理しておく。</p>					
課題と評価の方法	<p>授業テーマへの取り組み（グループワークへの積極的姿勢等）状況 40%   演習ノート取り組み状況 30%   課題レポート提出 30%</p>					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					◎
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	キャリアと個人の社会的役割 : なぜ働くのか『働くこと』を考えてみる。				事前：30分 事後：30分	
2	自分のキャリアを考えるⅠ : これまでの人生を眺めてみよう／人生線分析					
3	自分のキャリアを考えるⅡ : 私のことを考えてみる。					
4	自分のキャリアを考えるⅢ : 働く価値を考える／キャリアアンカー					
5	やりたい職業の適性を考える : 好きな役割 / 職業選択理論					
6	職業とキャリア : ライフロール					
7	思考のくせ、人間関係のくせ : もっともな、モットー					
8	就職活動を考える : J o b と W o r k / 仕事人生と全人生					
9	仕事理解（職業マイニング） : 五感を使った会社選び					
10	なりたい自分を考える : 自己分析の結果を整理する					
11	自分のキャリアを描いてみよう : キャリアパスを描く					
12	グループディスカッションⅠ : リーダーシップとチームビルディング					
13	社会人基礎力 : 社会の求める人材と能力					
14	始める一歩 : 自分のキャリアを自分で切り拓く					
15	就職活動を考える : グループディスカッションⅡ					
関連科目						
資格	観光ビジネス実務士（選択）					
教科書	改訂版 自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック（小野田博之著／日本能率協会マネジメントセンター／税別1,500円）					
参考資料	<p>「仕事のための12の基礎力」キャリアと能力の育て方（大久保幸夫著／日経BP社／税別1,500円）  「職業とは何か」（梅澤正著／講談社現代新書／税別700円）  「ネガボ辞典」（ネガボ辞典制作委員会／主婦の友社／税別1,000円）</p>					
連絡先	PC : hirose@fine-produce.co.jp mobile : sora518-angel@softbank.ne.jp					
オフィスアワー	カウンセリングや講演中以外は対応可。着信歴又はメールには折り返し連絡。					
備考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
社会コミュニケーション論入門	2	所 吉彦	1年	後期	講義	選択必修
授 業 概 要	オフィスで気持ち良く仕事をするための心構えや社会、すなわち企業をはじめとする組織環境で職場に溶け込める、コミュニケーション、動作を育むことを目的とします。					
キ ー ワ ー ド	社会コミュニケーション、職場常識、サービス接遇					
到 達 目 標	この授業で社会性の指導を通じ、相手を理解するためサービス精神を醸成し、サービス接遇検定2級レベルの知識獲得（文科省後援）が目標です。1年次で早々に資格を取得し、充実した学生生活を過ごしてください。					
受 講 生 に 望 む こ と	社会コミュニケーションは、組織人としての基礎知識です。「わかる」、「できる」でなく、日頃から「自然体で出来きている」ことが重要です。					
事前・事後学修期間中の学修	事前学修でテキストを読み、期中学修で練習問題に挑戦、事後学修で授業で行った確認問題を振り返ります。					
課 題 と 評 価 の 方 法	文科省後援サービス接遇検定2級受験または同等レベルを100%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					◎
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	オリエンテーション				事前事後各2時間	
2	要件整理					
3	サービス力					
4	社会常識力					
5	人間関係					
6	人間関係力2					
7	対人技能力1					
8	対人技能力2					
9	総合演習1					
10	総合演習2					
11	総合演習3					
12	直前演習					
13	検定試験					
14	実践に向けたアプローチ					
15	まとめ					
関 連 科 目	本科目で2級合格、2年次前期「社会コミュ実践論」の実技合格とあわせると「準1級」を獲得できます。					
資 格	サービス接遇検定2級（文科省後援）、観光ビジネス実務士（Ⅲ群）（選択）、プレゼンテーション実務士（選択）					
教 科 書	サービス接遇受験ガイド2級 978-4776613022 実務技能検定協会（編集）早稲田教育出版 ¥1,296					
参 考 資 料						
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス1号館2F、toko@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	水曜12:10-12:55、木曜12:10-12:55					
備 考	本科目は検定日程上、金曜3限4限と連続講義を実施（初回授業で説明します）、11/4日曜九品寺キャンパスで検定受験。願書は9/26水曜の学科オリテン時に配布。願書提出、検定料3,900円は教務課9/28金曜締め切りです。また、実務家外部講師による講話を予定しています。					

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
言語表現文化論入門	2	武田 昌憲	1年	後期	講義	選択必修
授 業 概 要	日本語による様々な言語表現、特に音声による表現芸術を中心に概観する。音声による表現は伝統という形で伝承されているものが多く、記録的検証に欠けるものもあるが、言語表現は歌のみならず、踊り・舞等の身体表現を使うものもある。中世以降に確立された能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎もその代表的な伝統的な芸術であり我が国を代表とする文化である。本授業では語りを含む演劇史を踏まえ、能・狂言・歌舞伎等の影響や違いなどについて理解する。各作品の魅力についても理解していく。					
キ ー ワ ー ド	語り、能・狂言、浄瑠璃、歌舞伎、講釈師・講談師					
到 達 目 標	言語表現が各時代で特質があることを認識できること。 言語表現が日本の伝統文化を支えていることが理解でき・説明できること。					
受 講 生 に 望 む こ と	出きる限り該当作品等に親しんでもらいたい。メディア媒体等でも親しんでもらいたい。					
事前・事後学修期間中の学修	事前に関係の事項について予習しておくこと 事後には該当作品等に触れ、または復習し、理解しておくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	授業態度・質疑応答・教場レポート 50% 期末レポート 50%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	はじめに				各回目安 4時間	
2	語り・琵琶法師					
3	歌謡・歌会					
4	祝詞・田楽					
5	能と狂言（1）					
6	能と狂言（2）					
7	白拍子から日本舞踊まで					
8	浄瑠璃の流れ					
9	歌舞伎の流れ					
10	能と歌舞伎の比較（1）					
11	能と歌舞伎の比較（2）					
12	能と歌舞伎の比較（3）					
13	講釈師・講談師					
14	漫才・落語・歌謡曲					
15	まとめ					
関 連 科 目						
資 格						
教 科 書	適宜、資料配布					
参 考 資 料	『ことばと文化』（岩波新書） 鈴木孝夫 文楽ハンドブック（三省堂） 藤田洋 狂言ハンドブック（三省堂） 油谷光雄 人形浄瑠璃の歴史（戎光祥出版） 廣瀬久也 シグマ新国語便覧（文英堂）					
連 絡 先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
情報メディア表現文化論入門	2	畠山 真一	1年	後期	講義	選択必修
授 業 概 要	本講義では、情報が流通するメディアの特性とそのメディアをとりまく文化を学びます。特に、マス・コミュニケーションと比較対照されるソーシャルメディアの特質とソーシャルメディアを通じて拡散・発生している文化を分析するフレームワークを学びます。					
キ ー ワ ー ド	ソーシャルメディア, マスメディア, メディア文化					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアの特質とメディアが可能とする文化のあり方を理解する。</li> <li>メディアのデザインが可能とするコミュニケーションのあり方を理解する</li> </ul>					
受 講 生 に 望 む こ と	メディアによるバイアスを意識しながら、批判的な視座を確立してください。					
事前・事後学修期間中の学修	事前に配布する資料を読み、疑問点を洗いだしておくこと。事後学修については疑問点がどのように解消されたかをまとめておくこと。					
課 題 と 評 価 の 方 法	授業の最終回に、発表もしくは成果物の展示をおこない、それをもって評価する。					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安
1	授業のあらましと目標					1回につき4時間
2	「メディア」と情報					
3	視覚メディアと聴覚メディア					
4	ドキュメンタリーと嘘					
5	マスメディアとソーシャルメディア					
6	ソーシャルメディアのアーキテクチャ					
7	ソーシャルメディアとゼロ円ファン					
8	静止画的視覚メディア					
9	動画メディアの変化					
10	音楽メディアの変化					
11	視聴覚の分離と統合					
12	メディアとデザイン 1 (メディアが制約する・拡張する理解)					
13	メディアとデザイン 2 (メディアが制約・拡張する身体)					
14	メディアとデザイン 3 (メディアが制約・拡張する感覚)					
15	まとめ：成果発表					
関 連 科 目						
資 格	プレゼンテーション実務士 (選択)					
教 科 書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。					
参 考 資 料						
連 絡 先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 畠山研究室、htk@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備 考						

科 目 名	単位数	担 当 者	履 修 年	学 期	授業形態	履 修 区 分
観光文化学入門	2	金 承珠	1 年	後期	講義	選必
授 業 概 要	観光とは人間の文化的な活動であり、現代社会において重要な社会現象である。 本講義では文化的活動としての観光とは何かを考えると共に、観光資源の利用と保全や観光と文化の関係について学ぶ。					
キ ー ワ ー ド	観光 文化 地域					
到 達 目 標	観光を社会学の視点からみた現代社会における観光現象を熊本県の身近な事例などについて自主的にも調べて「自ら考える力」「学際的知識・理解」「多角的な視野」を養うこと					
受 講 生 に 望 む こ と	講義内容に関する質問や疑問、自分の意見を自主的・積極的に言ってください。					
事前・事後学修期間中の学修	〈事前学修〉講義テーマに関する地元の事例などを調べる。 〈事後学習〉毎回講義終了約10分前に講義に関する質問・コメント等ミニレポートを書く。					
課 題 と 評 価 の 方 法	通常点（ミニレポートや課題）50% 期末テストまたはレポート50%					
DP1	日本語および外国語の運用力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					◎
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					
回	授 業 計 画				事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス				授業毎に、事前・事後で1時間	
2	観光と文化					
3	観光と地域社会					
4	観光資源化される文化①（客体化について）					
5	観光資源化される文化②（商品化について）					
6	エスニックツーリズム					
7	アーバンツーリズム①					
8	アーバンツーリズム②（熊本県の事例）					
9	クールジャパン（日本の文化）					
10	コンテンツツーリズム					
11	フードツーリズム					
12	観光と宿泊施設					
13	多様化する観光					
14	観光開発と地域アイデンティティ					
15	まとめ					
関 連 科 目	地域振興論					
資 格	観光ビジネス実務士（選択必修）					
教 科 書	特にありません。授業中に配布します。					
参 考 資 料						
連 絡 先	授業初回にアナウンスします。					
オフィスアワー	月曜 13:00～14:30  火曜 13:00～14:30  在室時はいつでも可					
備 考	場合によっては学外学修もある。その際の交通費等は自己負担である。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館制度・経営論		2	桑原 芳哉	1年	後期	講義	司書必修
授業概要	図書館に関わる法体系及び公共図書館・大学図書館に関わる近年の政策動向について概観し、政策や社会の動向に対応した図書館制度及び経営のあり方について解説する。具体的には、自治体行政・大学経営の動向と図書館、管理運営形態の多様化、図書館業務・組織・職員の理論と実際、サービス計画、図書館施設・設備計画、図書館ネットワーク、図書館業務・サービスの評価等について、近年の事例を紹介して解説する。毎回、図書館に関する最近の報道事例及び特徴的な図書館の事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有化を図る。						
キーワード	図書館経営、図書館法、図書館政策、図書館ネットワーク、これからの図書館						
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。(1) 我が国の図書館政策の動向 (2) 図書館の法的位置づけ (3) 図書館経営の現状と課題、特に、図書館の組織と職員、図書館の施設と設備、サービス計画、図書館評価、管理形態の多様化等に関する近年の動向について、幅広い視点から考察できることを目指す。						
受講生に望むこと	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。						
事前・事後学修期間中の学修	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。・期間中の学修として、公共図書館を訪問・利用すること、関連図書を読むことを求める。公共図書館の訪問・利用記録及び関連図書の読書記録の提出については、平常点の加点対象とする。						
課題と評価の方法	評価方法・レポート 25% 中間に1回のレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。・試験 50% 期末に定期試験を行う。・平常点評価 25%、発表・質問等についての積極性、授業態度、「復習用演習問題」等の提出状況などを評価する。平常点の加点・減点方法については、第1回授業で説明する。						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。						
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。						
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。						
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。						◎
回	授 業 計 画					事前・事後学修の目安	
1	ガイダンス (図書館情報学関係雑誌、参考図書の紹介)、図書館経営の意義 (教科書 p. 1 ~ 5、p. 96 ~ 103)					60分	
2	図書館制度の概観、図書館法の解説 (1) (教科書 p. 8 ~ 42)					60分	
3	図書館法の解説 (2) (教科書 p. 35 ~ 42)					60分	
4	図書館に関するその他の法規 (教科書 p. 23 ~ 34、p. 43 ~ 74)					60分	
5	図書館政策 (教科書 p. 75 ~ 94)					60分	
6	公共図書館の経営: 自治体行政と図書館、公共経営としての図書館経営 (教科書 p. 89 ~ 94、p. 104 ~ 119)					60分	
7	図書館の組織と職員 (教科書 p. 120 ~ 131)					60分	
8	図書館の財政と予算、図書館業務の理論と実際 (1) 具体的な業務 (教科書 p. 132 ~ 143、p. 120 ~ 131)					60分	
9	図書館業務の理論と実際 (2) 業務の効率化と専門性 (教科書 p. 190 ~ 195)					60分	
10	図書館の施設と設備 (教科書 p. 144 ~ 148)					60分	
11	図書館整備計画の策定 (図書館の地域計画) (教科書 p. 144 ~ 148)					60分	
12	図書館の計画とマーケティング、図書館の経営評価 (教科書 p. 144 ~ 183)					60分	
13	図書館の運営形態の多様化 (教科書 p. 184 ~ 205)					60分	
14	熊本県内及び近隣地域の公共図書館経営の現状・特徴と課題					60分	
15	まとめ: これからの図書館と求められる司書像 定期試験					60分	
関連科目	図書館概論						
資格	司書 (必修)						
教科書	糸賀雅児・葉袋秀樹 / 編集 『図書館制度・経営論』 (現代図書館情報学シリーズ 2) 樹村房、2013年 (ISBN: 978-4-88367-202-8)   教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。						
参考資料	今まど子、小山憲司 / 編著 『図書館情報学基礎資料』 樹村房、2016年 (ISBN: 978-4-88367-266-0)   ※『図書館概論』で教科書として使用した図書を、本授業でも参考資料として使用する。 文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	研究室 (管理棟4階 研究室14)   メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。						
備考							